

高校魅力化コンソーシアム 構築に向けた問い集

—高校魅力化コンソーシアム構築支援事業—

令和2年3月

島根県教育委員会

目 次

はじめに

「なぜ、コンソーシアムをつくるのか？」 ～コンソーシアム構築事業をふりかえって～	1
---	---

第1章

1-1 地域協働スクールの実現に向けて	2
1-2 高校魅力化コンソーシアム構築支援事業とは？	5

第2章 コンソーシアム構築に向けた問い

2-1 都市型モデル：松江東高校（松江市）	6
2-2 一市町村一校モデル：津和野高校（津和野町）	13
2-3 一市町村複数校モデル：雲南市（大東高校、三刀屋高校、掛合分校）	20
2-4 複数町村一校モデル：島前高校（海士町、西ノ島町、知夫村）	31

第3章 参考資料

3-1 高校魅力化コンソーシアム構築事業第1回研修	37
3-2 高校魅力化コンソーシアム構築事業第2回研修	42
3-3 参考文献・関連書籍	51

はじめに

「なぜ、コンソーシアムをつくるのか？」～コンソーシアム構築事業をふりかえって～

コンソーシアムモデル事業統括 大野佳祐
(隠岐島前高校学校経営補佐官)

コンソーシアムの先導モデル構築事業で学んだことは、「コンソーシアムに正解なし」という（ある意味では当たり前の）ことであった。正解がないのだからそのためのマニュアルもない。正解がないからこそ、先導モデル各校・各地域はそれぞれに悩み、悩み抜いてもまだ旅の途上である。改めて道なき道を進もうとする関係者の姿勢や行動に敬意を表したい。

本事業の初年度を終えるにあたり、島根県教育委員会に成果物として何を提出すべきかと考えた際に、うまくいったことだけを列挙するマニュアルや教科書ではなく、成功も失敗も含めた各先導地域の生の声による事例集ではないかと思い至り、このようなかたちで皆さんの手元に届くこととなった。

この事例集は、これまで「まったくコンソーシアムなど考えたこともなかった」という方々に向けて作成されている。コンソーシアムの立ち上げ段階では何をしたのか、誰を中心に動いたのか、どのようなメンバーで構成されているのか。当初は「どのように (How)」をなるべく多く示すことが役に立つのではないかと考えていたが、様々な方々と議論を重ねていくうちに、そしてコンソーシアム構築に係る研修で集まるたびに、実は「なぜ (Why)」を問う方が重要であると気づくことができた。

貴校（地域）は、なぜ、コンソーシアムをつくるのか。

まずはこの問いにじっくりと向き合うことから始める必要がある。すぐに答えられなくてもいい。むしろ、その問いを周りにいる先生方や地域の方々に聴くことから始めてもいいのではないか。私たちはなぜコンソーシアムをつくるのか。私たちはコンソーシアムをつくることで、どんな学校の未来をつくりたいのか。学校と地域が協働してどんな生徒を育てたいのか。そして、その生徒たちと共にどんな地域の未来をつくりたいのか。こうして問い合うプロセスづくりこそが、コンソーシアム事業の要であるとなると、先導モデルとなった各校・各地域が示してくれた。コンソーシアム構築は手段であって、目的ではない。

繰り返しになるが、コンソーシアム構築に正解はない。

だからこそ主体的に動き、多様な人々と協働しながら答えのない課題に粘り強く向かっていく資質・能力が求められている。奇しくもこれは、私たち大人が子どもたちに日々伝えていることにほかならない。率先垂範で私たち大人が背中を見せる時が来た。

第1章

1-1 地域協働スクールの実現に向けて（「県立高校魅力化ビジョン」（平成31年2月）より）

【実現の目的】

「生きる力」は、学校だけで育まれるものではなく、多様な人々との関わりや、様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、地域とのつながりや信頼できる大人との関わりを通して、子供たちは心豊かにたくましく成長していくことができます。この「生きる力」の育成のために、地域の子供たちにどのように育ってほしいのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを、地域の住民や市町村、小・中学校、社会教育機関、地元企業等と高校とが主体的・創造的な対話を行いながら協働で策定し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」（以下「地域協働スクール」）を実現することが求められています。

そのため多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制が必要であり、この協働体制を高校魅力化コンソーシアム（以下「コンソーシアム」）と呼びます。

【概要】

コンソーシアムには「意思決定の場」と「協働活動の場」が設定され、相互に連携しながら「地域協働スクール」の実現を目指します。

「意思決定の場」は校長、事務長、市町村代表、保護者代表等が、学校と地域の協働ビジョンや学校経営の基本方針等について協議・共有し、必要に応じて承認等を行う会議の場です。協議や承認する具体的な内容は各コンソーシアムに委ねられますが、「地域の子供たちにどのように育ってほしいのか、何を実現していくのかという目標やビジョン」が策定されるような場になることを目指しています。

「協働活動の場」は学校に関わる多様な人材や団体により、学校と地域との協働活動がなされたり、学校経営等に係る対話や熟議がなされたりする活動の場です。これも具体的な活動の内容は各コンソーシアムに委ねられますが、学校の諸活動の支援や家庭教育の支援、外部との連携・調整、情報発信の支援等が考えられます。

コンソーシアム設立後の運営にあたっては、各校・各地域の実態に応じて、PDCAを回しながら、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制の一層の推進を図り、「地域協働スクール」の実現を目指します。

【具体的な取組】

○全ての高校において、地域と協働しながら「目指す学校像」、「育てたい生徒像」、特色ある教育課程及び「求める生徒像」等の明確化を図る。

○教職員、生徒・保護者、市町村、小・中学校、大学、社会教育機関、地元企業、地域住

民、関係団体等の多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制（以下「高校魅力化コンソーシアム^(※1)」という。）を、全ての高校において構築する。

項 目	2018 H30	2019 H31	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)
高校魅力化コンソーシアムの構築	高校魅力化 推進 協議会等	構築・展開			全ての高校 で構築	推進

※高校における新学習指導要領が実施される2022年までに、全ての高校において構築

- ・高校魅力化コンソーシアムの設置・運営においては、既存の連携組織（高校魅力化推進協議会^(※2)、学校評議員、学校関係者評価委員会、PTA、卒業生会等）を活用するなどその知見等を生かす。なお、高校魅力化コンソーシアムの構成員は、各高校や地域の実情に応じて柔軟に設定する。

※地域協働スクールのイメージ図を参照

- ・高校と地域の協働体制の設計や運営管理など、高校魅力化コンソーシアムの総合調整を担う職員の配置を検討する。
- ・高校の事務室が学校の経営や地域との協働に、より一層主体的・機能的に参画できる体制の充実を図る。
- ・県教育委員会は、教育魅力化推進チーム^(※3)の体制面での充実及び更なる機能強化を図り、各コンソーシアムを支援する伴走^(※4)を行うとともに、各コンソーシアムの取組や意見等を教育施策や教職員の任用等の参考とする。
- ・県民をはじめとした多くの方々に、各高校や地域の個性に応じた魅力と特色ある教育活動を応援していただくための寄附制度等を検討する。

※1 コンソーシアム……2つ以上の個人、企業、団体、政府等（あるいはこれらの任意の組合せ）からなる団体で、共同で何らかの目的に沿った活動を行うために結成されるもの。

※2 高校魅力化推進協議会……「教育魅力化推進事業」の対象地域・高校において、教育理念や目標、教育課程、予算、人事などについて、地域のニーズを反映できるよう、高校と市町村との「協働運営」を志向した協議の場として設置。H30年5月現在、13協議会（16市町村21校）が設置されている。

※3 教育魅力化推進チーム……教育魅力化に取り組む市町村との協働を目指し、県教育委員会を中心に県地域振興部や（公財）ふるさと島根定住財団などの組織横断のメンバーで構成されたチーム。

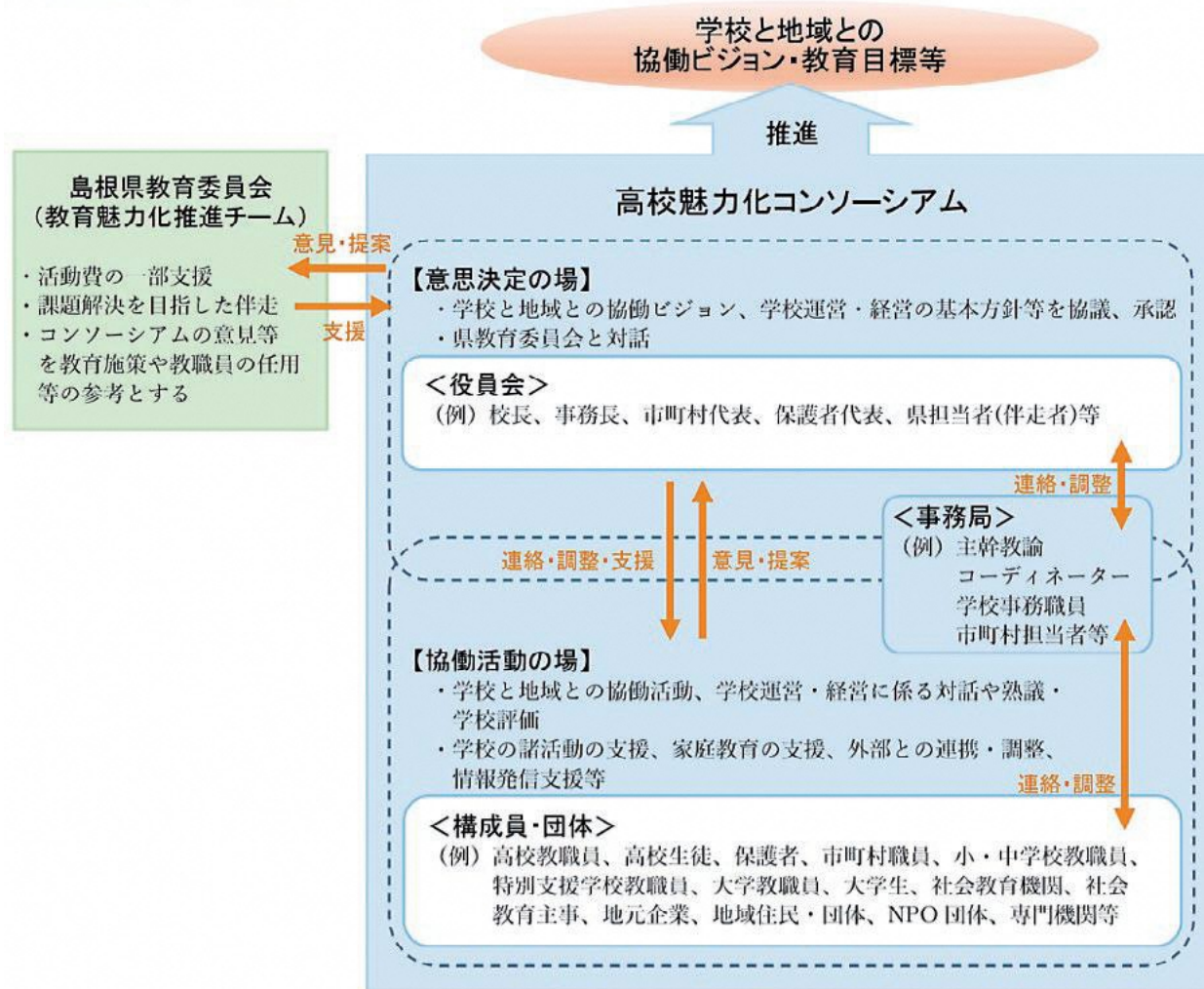
※4 伴走……教育魅力化推進チームのメンバーが、現場に出向いて顔の見える関係を構築しながら、現場と共に学ぶというスタンスで課題解決を目指すこと。

●新学習指導要領が実施される2022年に向けた各高校のステップイメージ

ステップ1	ステップ2	ステップ3	2021年度	2022年度
準備	教育理念の明確化	学びの体制の構築1	学びの体制の構築2	実施
・新学習指導要領及び県立高校魅力化ビジョン等の共有 ・「社会に開かれた教育課程」を見据えた高校づくりへのスケジュール、検討体制等を計画	・学校と地域との協働ビジョン、「目指す学校像」、「育てたい生徒像」、「社会に開かれた教育課程」の方針、「求める生徒像」等の明確化	・高校魅力化コンソーシアムの体制、新学習指導要領における特色ある教育課程、入学者選抜方法等の再設計	・新学習指導要領における教育課程の申請及び入学者選抜方法の準備・実施	・新学習指導要領における教育課程の年次進行 ・充実した高校魅力化コンソーシアムのもとでのPDCAサイクルの実施
・学校行事、業務等の不断の見直し・精選・効率化 ・教職員の働き方改革の推進による負担の軽減				

※ 上表は例であり、各高校と地域の実情に応じて設計し進めていく。

●地域協働スクールのイメージ図



※ 上図は1 高校 1 コンソーシアムの例であり、市部においては複数の高校で1 コンソーシアムの場合も想定される。

1-2 高校魅力化コンソーシアム構築支援事業とは？

「県立高校魅力化ビジョン」により、新学習指導要領が実施される2020年までに、県内全ての高校において、コンソーシアムが構築される状態を目指しています。

そのため、2019年－2020年にかけて、「コンソーシアム構築支援事業」を実施し、地域特性を踏まえた「先導モデル」のコンソーシアム構築支援と、そこから得られた知見を、全県立高校に共有するための研修会の実施及び、知見の可視化として「高校魅力化コンソーシアムにおける問い集」を発行しました。

コンソーシアム構築を通じて、何をを目指すのか、どんな課題を解決したいのか、そのために、どんな構成団体やメンバーにし、どんなスケジュールで設立に至ったのか。第2章より、2019年における各モデル校・地域のコンソーシアム構築に向けたプロセスを「問い」という形でまとめています。

●都市型モデル：島根県立松江東高等学校（松江市）

都市部に所在し、高校魅力化推進協議会のような既存組織がない高等学校において高校魅力化コンソーシアムを構築・運営するモデル

●一市町村一校モデル：島根県立津和野高校（津和野町）

中山間地域に所在し、高校魅力化推進協議会のような既存組織がある高等学校において、当該既存組織を更に進化・発展させて高校魅力化コンソーシアムを構築・運営するモデル

●一市町村複数校モデル：島根県立大東高等学校・島根県立三刀屋高等学校・同掛合分校（雲南市）

同一の市町村に複数の県立高等学校が所在し、高校魅力化推進協議会のような既存組織がある高等学校・地域において、当該市町村内での高校魅力化コンソーシアムのあり方を検討した上で、構築・運営していくモデル

●複数町村一校モデル：島根県立隠岐島前高校（海士町、知夫村、西ノ島町）

複数町村に一校のみが所在し、率先して高校魅力化の取組を推進している高校・地域において、高校魅力化コンソーシアムを構築・運営するモデル

第2章 コンソーシアム構築に向けた問い

2-1 都市型モデル：松江東高校

▼今年度のゴール

- ・都市部エリアのコンソーシアムが構築され、目指すべきビジョンが明確になること
- ・大学、企業連携などステークホルダーの把握及び整理

▼コンソーシアムのビジョン（作りたい未来）

地域に貢献する人材＝「地域共創人」を輩出する高校となることです。

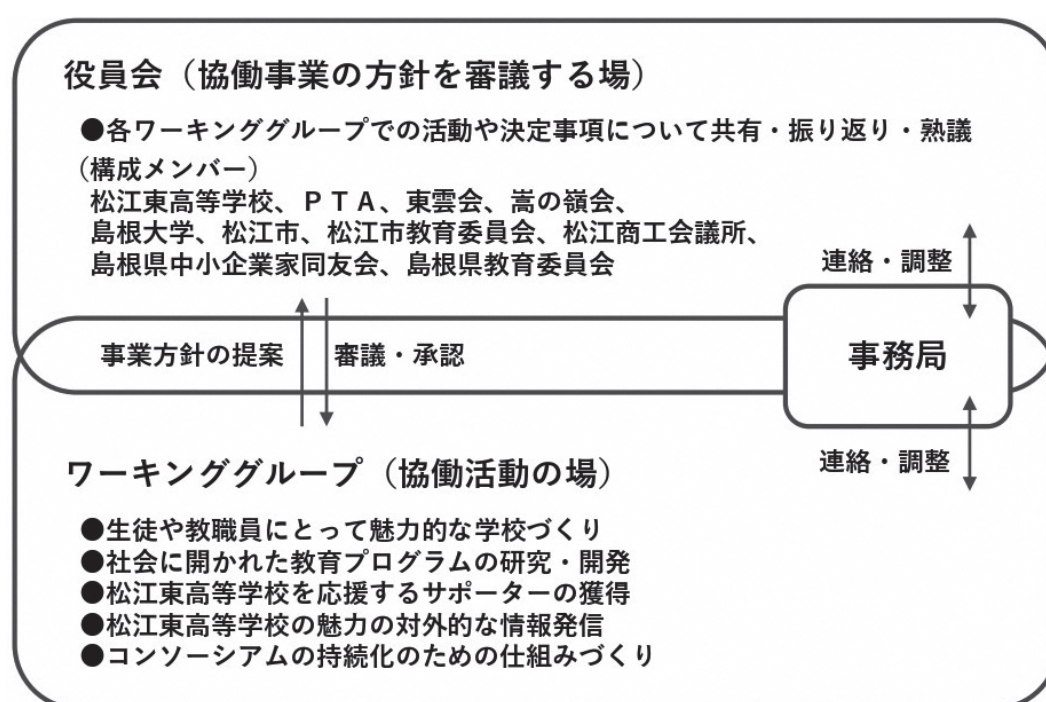
以下のように、コンソーシアム規約内では整理しています。

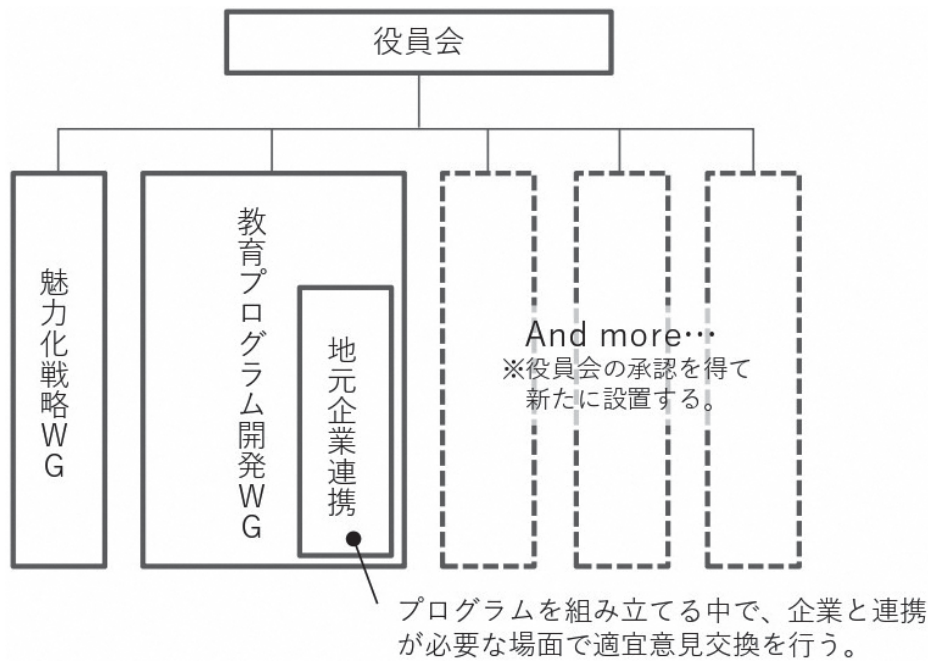
コンソーシアムは、松江東高等学校が目標とする地域の未来を担う人材である「地域共創人」の育成と生徒により良い学びを提供するための環境づくりを目指して、企業、自治体、高等教育機関等の地域の多様な関係者と生徒、保護者、教職員、同窓会等の松江東高等学校関係者とが、協働体制を構築することにより、主体的・創造的な対話を行いながら、松江東高等学校の学校教育をより良いものにしていくことを目的とする。

▼解決したい課題

一つは、高校だけでは実現することが難しい地域共創人を育成するための探究学習のカリキュラムの開発をすることです。二つ目はこうした取り組みを通じ、高校の魅力度をあげ、志願者数を確保し続けることです。

▼組織図





▼参加メンバー

構成団体は下記のとおりです。

松江東高等学校PTA	松江市教育委員会
東雲会（松江東高等学校同窓会）	松江商工会議所
一般財団法人嵩の嶺会	島根県中小企業家同友会
国立大学法人島根大学	島根県教育委員会
松江市	松江東高等学校

▼スケジュール

- 12月 第1回設立準備会（H30/12/18）
- ・ 顔合わせ
 - ・ 高校魅力化コンソーシアムの設置目的と役割
- 1月 第2回設立準備会（H31/1/23）
- ・ 文科省事業への申請について



- 3月 第3回設立準備会（H31/3/12）
- ・コンソーシアムの運営方針
 - ・県先導モデル創出事業について
- 4月 第4回設立準備会（H31/4/25）
- ・趣旨、目的
 - ・推進体制
 - ・主な内容・スケジュール
 - ・『地域共創人』プロジェクトについて
- 7月 第5回設立準備会（R1/7/24）
- ・現状の進捗と課題について
 - ・ワークショップ『地域共創人』とは？
- 9月 第6回設立準備会（R1/9/24）
- ・規約（案）検討
 - ・役員構成メンバーについて
 - ・コンソーシアムの活動内容について
- 12月 第1回役員会（R/12/4）
- ・規約（案）承認
 - ・会長、役員の互選
 - ・事務局長の選任
 - ・事業概要
 - ・組織体制
 - ・事業計画
- 3月予定 第2回役員会
- ・次年度の事業計画について



▼コンソーシアム構築に向けたプロセス

ゴール	重点項目	体制
都市部エリアのコンソーシアムが構築され、目指すべきビジョンが明確になる。 →大学、企業連携などステークホルダーの把握及び整理	①コンソーシアムの構築課題の整理・島根大学、企業などステークホルダーの整理 ②島根大学と連携した課題解決型学習の検討	①コンソーシアムマネージャー（株式会社エブリプラン） ②高校管理職、主幹教諭 ③島根大学 ④県伴走者 ⑤中小企業同友会等、県内企業

NO	カテゴリ	問い	回答
1	最初の一步	最初の旗振り役はどなたでしたか？	校長が最初の旗振り役です。通学区撤廃による志願者減が危惧される中、志願者増・学級数維持・資金確保など松江東高校の持続可能性を高めるため、文科事業を獲得し、探究授業の充実・単位制普通高校化へ向けての取り組みをはじめました。さらにそれを支える組織としてコンソーシアムの構築にも着手しました。
2		最初の一步目は何でしたか？	まずは「しまね大交流会」を通じてお声がけいただき、高大連携の検討を始めることになった島根大学と校長のつながりが最初の一步でした。あわせて、課題解決型の探究を行う中で、地域との連携は必須と考えました。 地域とは何か？と聞かれたとき、中山間地域はわかりやすいですが、都市部の学校にとっては当初はわかりにくいものでした。そのような中、島根県中小企業家同友会の方と校長との話し合いがきっかけとなり、都市部の企業の課題を解決することを提案され、地域＝企業としてはじめてたことも大切な一步になりました。 また、自治体との連携という点では嵩の嶺会に所属されている松江副市長経由で松江市産業経済部の産業連携専門監のご紹介を受けたことが最初の一步となります。 このように校長の足でつながりを作っていったことや、これまでのつながりを生かしたことがすべてはじまりになっています。その時に、ただコンソーシアムに参画してほしい、ではなく、生徒にどんな学びを提供したいか、コンソーシアムによって実現したいことを伝えることが大事だと思います。
3		最初の会議では何を話しましたか？なぜそのテーマを設定しましたか？	H30年12月18日に第1回設立準備会を開催しました。コンソーシアムの趣旨・目的、推進体制、主な内容とスケジュール、文科省の事業として申請をしようとしていた『地域共創人プロジェクト』について共有をしました。
4	ビジョン（目的）	コンソーシアムにより作りたい未来はどんな未来ですか？	地域に貢献する人材＝「地域共創人」を輩出する高校となることです。以下のようにコンソーシアム規約内では整理しています。 ===== コンソーシアムは、松江東高等学校が目標とする地域の未来を担う人材である「地域共創人」の育成と生徒により良い学びを提供するための環境づくりを目指して、企業、自治体、高等教育機関等の地域の多様な関係者と生徒、保護者、教職員、同窓会等の松江東高等学校関係者とが、協働体制を構築することにより、主体的・創造的な対話を行いながら、松江東高等学校の学校教育をより良いものにしていくことを目的とする。
5		コンソーシアム構築により解決したかった課題は何ですか？すでに協議会が存在した学校は、これまでの協議会では解決しなかった課題は何でしたか？	一つは、高校だけでは実現することが難しい地域共創人を育成するための探究学習のカリキュラムの開発をすることです。二つ目はこうした取り組みを通じ、高校の魅力度をあげ、志願者数を確保し続けることです。

【都市型モデル：松江東高校】

NO	カテゴリ	問い	回答
6	ビジョン (目的)	どのようにコンソーシ アムメンバーの共同ビ ジョンをつくりあげま したか？	探究事業に関連する文科省事業申請を書く中で『地域共創人』という言葉は生み出されました。探究学習を通じて生徒がどのような力を身に着けるべきか？ということ考えた過程でできたものです。『地域共創人』をビジョンの中心にすえ、準備会も進んでいきましたが、途中、コンソーシウム設立準備委員会のメンバー全員に1人1時間程度ヒアリングをしたところ、ビジョンの中心におく『地域共創人』が共通認識できていないということがわかったのでワークショップを行い、掘り下げをしました。ワークショップでは、『私たちが育てたい地域共創人はどんな人ですか？』という問いと『コンソーシウムが地域共創人を育てるためにどんな役割を担うべきですか？』、『自分や自分が所属している組織として地域共創人を生み出すための最初の一步は何ですか？』という問いをグループで話しました。これにより『地域共創人』に対する理解が深まりました。
7	ヒト	コンソーシアムのメン バーはどのような観点 で決めましたか？	校長のつながりを生かし、島根大学、島根県中小企業家同友会、松江市、松江商工会議所との連携を進めていきました。 構成団体) 松江東高等学校PTA、東雲会(松江東高等学校同窓会)、一般財団法人嵩の嶺会、国立大学法人島根大学、松江市、松江市教育委員会、松江商工会議所、島根県中小企業家同友会、島根県教育委員会
8		コンソーシウム構築の 際、中心人物(中心チ ーム)となった方(々) はどのような方です か？	外部からの参画団体へのアプローチは校長先生を中心に動き、連携を進めていきました。内部の体制づくりは校長・教頭・主幹教諭をメインに行いました。また、金銭面については事務長が中心に動きを進めていきました。4月からコンソーシウムマネージャーが合流し、事務局として、役員会の資料作成、ワークショップサポート、コンソーシウムに参加する企業の意向把握、教職員アンケート等を行っていきました。
9		コンソーシウム構築の 目的や意義を参加メン バーにどのように説明 しましたか？	校長が一人ひとりに訪問と説明にまわりました。また、説明だけではなく、第5回設立準備会ではビジョンを共有するため、ワークショップ形式での議論を行い、目的の理解を深めました。
10		コンソーシウム構築の 際、校内の体制や理解 をどのように構築しま したか？	分掌に魅力化推進部を新設しました。推進部は、教員6名、図書館司書1名、コンソーシウムマネージャー1名の8名で構成しました。部会を週1回実施することからはじめていきました。 また、6月からは週1回の校内連絡会を開催し、魅力化事業に関わるあらゆる情報を共有・議論しています。メンバーは校長、教頭、事務長、主幹教諭、魅力化推進部長、進路指導部長、教務部長、生徒部長、コンソーシウムマネージャー。
11		地域や企業といった学 校外コンソーシウムメ ンバーをどのように巻 き込みましたか？(巻 き込み方の工夫は？)	校長のこれまでのつながりから島根大学とのつながり、企業とのつながり、後援会のつながりから松江市とのつながりができていきました。そこから、さらに紹介を受ける形で商工会議所につながっていています。スピード感をもって、ご紹介いただいた方へ会いにいき、なぜコンソーシウムが必要なのか？どんな学校づくりをしたいのか？を伝えていきました。また、準備会の方々には途中、コンソーシウムマネージャーがヒアリングを行い、それぞれの思いを直接把握し、運営に生かしていったことも大きかったです。
12		コンソーシアムのメン バーの中に構築への反 対者はいましたか？そ の人をどのように巻き 込みましたか？	反対者はいませんでした。
13		コンソーシウムの中で 事務局の体制や役割は どのようなものでした か？	事務局は校内に設置しました。事務局長：教頭、メンバー：主幹教諭、各部の部長、事務長、コンソーシウムマネージャーが構成員です。本モデル事業で事務局サポートとしてコンソーシウムマネージャーを設置、準備会、役員会の資料作成、ワークショップサポート、コンソーシウムに参加する企業の意向把握等を行いました。現在、コンソーシウムの中でも探究学習のワーキンググループが活発に動いています。探究学習のワーキンググループを走らせながら同時にコンソーシウムの立ち上げを行ったような1年でした。

NO	カテゴリ	問い	回答
14	ヒト	コンソーシアム構築にあたり、うれしかった外部サポートはありましたか？	県の伴走者はよき相談相手となりました。
15	カネ	コンソーシアム構築のために新たに確保した・使ったお金はありますか？	文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」
16		構築後の資金調達・運用をどのように考えていますか？	R3年度からの自立したコンソーシアム運営に向けて、R2年度での検討を進めています。
17	スケジュール	当初スケジュールを教えてください。	当初はH31年4月に設立予定でしたが、コンソーシアムのメンバー間でビジョンが共通言語化できていなかったため、R元年10月に延期し、最終的にR1年12月設立となりました。
18		スケジュールは想定通りに進行しましたか？それとも変更がありましたか？変更点について教えてください。	コンソーシアムの設立はR元年12月となりました。ビジョン共有とコンソーシアム役員の選出に想定より時間がかかりました。大きな組織と協働する場合は相手の組織内でも内容が通りやすいように説明や資料の準備をする必要性を感じました。
19		コンソーシアム構築にあたり、ここまでどのくらいの時間をかけましたか？（会議数、人数などから工数めやすがわかるとよい）	6回の準備会を経て構築を実現しました。校長先生とコンソーシアムマネージャー間では毎週、コミュニケーションを密にとったほか、6月からは週1回の校内連絡会も開催しています。
20	既存の組織体	すでにある組織の役割をスライドさせたケースはありますか？（協議会等が設置済の学校）	なし
21		（魅力化校に対する問い）協議会とコンソーシアムの違いはなんですか？	なし
22		コンソーシアム構築にあたり、参考にしたモデルケースはありましたか？	なし
23	構築後の変化	コンソーシアム構築によって、どのような変化がありましたか？またはどのような変化を期待しますか？	活発に動いているのは探究学習を研究する教育プログラム開発ワーキンググループです。コンソーシアムを通じて、探究学習に関わるステークホルダーとの信頼関係が構築できはじめており、活動の充実が今後期待できます。また、探究学習を通して、生徒が県外の研修会への参加に手を上げ、その場で積極的に発言をしている姿に大きな成長を感じています。
24		コンソーシアム構築はどのように生徒の学び・成長につながっていますか？またはどのような学び・成長につながることを期待しますか？	

【都市型モデル：松江東高校】

NO	カテゴリ	問い	回答
25	全体	この1年を振り返ってコンソーシアムにとっての一番の壁やターニングポイントは？	大きな組織に参画をいただくことには想定以上に時間がかかりました。提案を持ち込むときは、なぜコンソーシアムが必要なのか？コンソーシアムを通じて何を実現したいのか？という思いをしっかりと伝えること、さらに担当者だけではなくその相手組織の上位層にも伝えられるような工夫が必要です。また、松江東高校は松江市に参画をいただいておりますが、都市部の学校の場合は必ずしも自治体をコンソーシアムに含める必要性はないと思います。また、同じ自治体連携でも、担当課単位での連携なども検討できます。自分たちの関係性を最大限生かし、コンソーシアムを構築することが大切です。

2-2 一市町村一校モデル：津和野高校

▼今年度のゴール

- ・ 1町1校のコンソーシアムが構築され、持続可能な推進体制が構築されること
- ・ これまでの魅力化事業体制との融合・発展をはかること

▼コンソーシアムのビジョン（作りたい未来）

地域との協働による保小中高連携した教育改革を目指し、まず高等学校が自治体、大学、民間等との協働によりコンソーシアムを構築し、各機関・団体が抱える課題の解決等の大人と子どもによる探究的な学びを通して「ひとづくりによるまちづくり」を実現したいと考えています。

▼解決したい課題

コンソーシアムの構築により解決したい課題は下記です。

- ①地域との連携が、属人的に個人のコーディネーターに依存（人材の確保・留保に課題、個人の関係性・繋がり）＝継続・持続可能性の欠如
- ②町内の企業・団体が抱える資源・課題と、高校の資源・課題間が未接続
高校の資源の未活用（高校生、未来の大人、スキル・能力）
高校生の活動の場が、部分的かつ限定的＝連携する仕組みが不十分
- ③高校の魅力化が教育分野のみで、町の課題や未来までリンクできていない（定住政策や市民の社会参画、生涯教育のリンク、福祉・子育てへのリンク＝長期的視点・ビジョンを持ち、さらに強化）

以上の（orこれらの）課題を解決し、併せて下記の効果がもたらされることを想定し、コンソーシアムを法人化します。

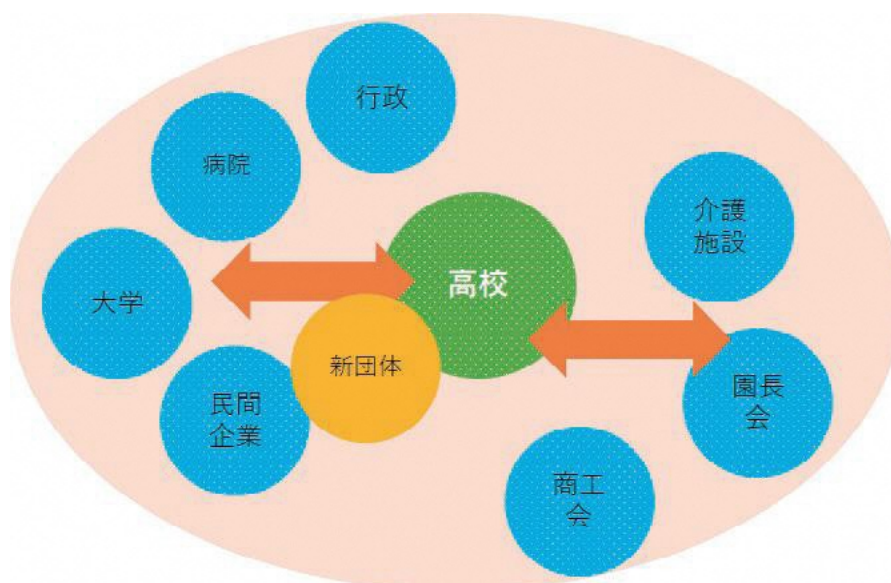
法人化を行うことを通じて下記の効果を狙います。

- ①雇用の画一化（働き方、待遇・報酬面）
- ②組織の硬直化（意思決定・マネジメント）
- ③資金運用の煩雑化（資金調達、資金運用）
- ④活動の画一化（責任の所在、コーディネーターの位置付け）
- ⑤事務局の負担増（予算規模の増大）

▼組織図

令和元年1月にコンソーシアム設立準備委員会を立ち上げ、令和2年3月中に社団法人化しました。その後、令和2年度下半期を目途に津和野町からの拠出金をベースにした財団法人を設立する予定です。

なお、法人化のイメージは次のとおりです。



▼参加メンバー

準備委員会構成メンバーは下記のとおりです。

役職	氏名	所属・肩書
会 長	熊谷 修山	島根県立津和野高等学校校長
副 会 長	俵 伸之	島根県立津和野高等学校教頭
理 事	黒崎 孝治	島根県立津和野高等学校主幹教諭
理 事	中村 純二	津和野町教育魅力化統括コーディネーター
理 事	山本 竜也	津和野町高校魅力化コーディネーター
理 事	長嶺 清見	島根県立津和野高等学校後援会事務局長
理 事	楠 寛	津和野町津和野高校支援係係長
理 事	湯浅 典子	津和野町津和野高校支援係主任主事
事務局長	藤原 健司	島根県立津和野高等学校事務長
監 事	宮本 善行	津和野町町営英語塾塾長
監 事	澄川 照一	津和野高等学校同窓会会長

コンソーシアムマネジャーは上半期と下半期で兼務という形で進めていきました。

上半期 津和野町教育魅力化統括コーディネーターが兼務

下半期 町営英語塾HAN-KOU運営スタッフが兼務

(他1名がアドバイザーとして関与)

▼スケジュール

- 4月 コンソーシアム構築の検討メンバーの決定、体制の検討
 ・「コンソーシアム設立準備委員会（会長 校長、事務局長 学校事務長）※任意団体・会則・人の雇用も可能な組織」
- 5月・6月
 関係者ヒアリング（5/8 校長、5/25 事務長、役場担当者、公営塾塾長、担当者）
 ・体制案の検討・協議
- 7月 第1回設立準備委員会総会（7/3）
 ・年度内は当初予算内で実施し、4/1or5/1に法人立ち上げのスケジュールに
- 9月 第2回設立準備委員会総会（9/11）
 ・課題の整理や法人設立の意義、コンソーシアム作りに向けた内容に関して議論
 ・準備社団法人を設立（2019年年内）後、運用面などの実験を経て、準備が整い次第、財団法人へ移行（R2年度中）を目指すことに。
- 10月 第3回設立準備委員会総会（10/18）
 ・コンソーシアムの目的、法人の組織図、スケジュールに関して議論を行い、大筋で準備社団法人の設立や組織図、移行のプランに関し合意を得た。
 住民向けワークショップ（10/18）
 ・民間側の視点のヒアリングとしての性格もあった
- 11月 第4回設立準備委員会総会（11/7）
 ・ワークショップ形式で実施。まちづくりとの接続や大事にすべきこと、プロジェクトの概要について話し、チームとしての理解も深まった。
 第5回設立準備委員会総会（11/26）
 ・後援会事務局（津和野町役場高校支援係）から法人化に関してやコンソーシアムについての叩き台を提示してもらい議論。
 ・新法人の理事／評議員についての選択肢が提示され、議論を深めた。
 ・設立準備委員会の事務局体制を強化するため、内規や起案ルートの整備を実施
- 12月 後援会臨時理事会、臨時総会を経て、R2年度からの法人化およびコンソーシアムの方向性について合意
- 1月 第7回設立準備委員会（1/29）
 ・役員の人選について、定款の文言について、コンソーシアム構築の推進体制についてを議論
- 2月 第8回設立準備委員会（2/28）
 ・役員の決定、社団設立後の設立準備委員会の体制・役割について議論

▼コンソーシアム構築に向けたプロセス

ゴール	重点項目	体制
1 町 1 校のコンソーシアムが構築され、持続可能な推進体制が構築される。 →これまでの魅力化事業体制との融合・発展	①コンソーシアムの構築 高校後援会（公営塾）・高校魅力化推進事業の整理及び現状課題の抽出 ②法人化の検討 …現状課題の整理 …中長期事業計画の作成	①高校管理職 ②現場スタッフ ③高校後援会（公営塾等運営） ④津和野町（つわの暮らし・教育委員会） ④県伴走者 ⑤コンソーシアムマネージャー（教育魅力化統括プロデューサー）

NO	カテゴリ	問い	回答
1	最初の一步	最初の旗振り役はどなたでしたか？	最初にコンソーシアム設立に向けて想いをもち、意思決定をする人としての校長の存在がありました。 さらにそれを進めるには推進役が必要です。この役割を津和野町教育魅力化統括コーディネーター中村・津和野高校魅力化コーディネーター山本が担うことで、プロジェクトが進んでいきました。
2		最初の一步目は何でしたか？	コンソーシアムそのものの必要性を最初に感じたわけではなかったです。 もともと、津和野で抱えていた課題感とコンソーシアム事業の接点は何か？を考えていく中で、これまで構想として挙がっていた法人設立とコンソーシアムの事業が結びつき、動き始めました。 コンソーシアムありきというより、これまで培ってきた魅力化事業とその課題ありきという形ではじまりました。
3		最初の会議では何を話しましたか？なぜそのテーマを設定しましたか？	最初の会議においては、以下の3つの議題について話し合いました。 ①津和野町・津和野高校における課題について ②法人化を進める上での形態と組織図に関して ③今後の工程とタスクについて 議題設定の意図は、関係者が揃って津和野高校魅力化についての課題を共有したうえで、その解決手段であり、コンソーシアム構築にもつながる「法人化」についてのイメージを共有する必要があったからです。また、スケジュールやタスクを把握して共有し、合意することで今後の見通しを持って作業ができると考え、③についても議論を行いました。
4	ビジョン（目的）	コンソーシアムにより作りたい未来はどんな未来ですか？	効果＝作りたい未来は下記と考えます。 ▼コンソーシアムの効果 コンソーシアムにより作りたい未来は、以下の通りです。 地域との協働による保小中高連携した教育改革を目指し、まず高等学校が自治体、大学、民間等との協働によりコンソーシアムを構築し、各機関・団体が抱える課題の解決等の大人と子どもによる探究的な学びを通して「ひとづくりによるまちづくり」を実現したいと考えています。 ▼法人化の効果 ①雇用の柔軟性（働き方、待遇・報酬面） ②組織の柔軟性・組織化（意思決定・マネジメント） ③資金の柔軟性（資金調達、資金運用） ④活動の柔軟性（生徒活動の多様化、インターン採用、行政と学校のすき間） ⑤事務局機能の強化（事務局雇用、資金調達・広報、行政の負担削減）

NO	カテゴリ	問い	回答
5	ビジョン (目的)	コンソーシアム構築により解決したかった課題は何ですか？すでに協議会が存在した学校は、これまでの協議会では解決しなかった課題は何でしたか？	▼コンソーシアムで解決したい課題 ①地域との連携が、属人的に個人のコーディネーターに依存（人材の確保・留保に課題、個人の関係性・繋がり）＝継続・持続可能性の欠如 ②町内の企業・団体が抱える資源・課題と、高校の資源・課題間が未連続 高校の資源の未活用（高校生、未来の大人、スキル・能力） 高校生の活動の場が、部分的かつ限定的＝連携する仕組みが不十分 ③高校の魅力化が教育分野のみで、町の課題や未来までリンクできていない（定住政策や市民の社会参画、生涯教育のリンク、福祉・子育てへのリンク＝長期的視点・ビジョンを持ち、さらに強化） 以上の（orこれらの）課題を解決し、併せて下記の効果がもたらされることを想定し、コンソーシアムを法人化します。 ▼法人化で解決したい課題（これまでの協議会で解決しなかった理由） 津和野町魅力化事業における運用面での課題を解決するため、法人化が必要と考えました。 ①雇用の画一化（働き方、待遇・報酬面） ②組織の硬直化（意思決定・マネジメント） ③資金運用の煩雑化（資金調達、資金運用） ④活動の画一化（責任の所在、コーディネーターの位置付け） ⑤事務局の負担増（予算規模の増大）
6		どのようにコンソーシアムメンバーの共同ビジョンをつくりあげましたか？	最小単位として校長・事務長・津和野町教育魅力化統括コーディネーター中村・津和野高校魅力化コーディネーター山本の4人が中心としてまわっていました。
7	ヒト	コンソーシアムのメンバーはどのような観点で決めましたか？	最初は、議論して詰めていくことも多くスピード感も必要だったため、すでに下地があり方向性を共有しやすいメンバーで小さなコアチームを作ることになりました。 準備委員会を今後は社団法人化し、その後、津和野町からの拠出金をベースにした財団法人を設立予定です。
8		コンソーシアム構築の際、中心人物（中心チーム）となった方（々）はどのような方ですか？	共同ビジョンを一緒に作ったのち、修正しながら、津和野町役場の高校支援係も推進役として進んでいきました。また、町営英語塾HAN-KOHの玉木などが下半期は、マネージャーとして加わり要所要所を押さえながら進行していきました。
9		コンソーシアム構築の目的や意義を参加メンバーにどのように説明しましたか？	イメージをすり合わせるため、随時、図を含めた資料を作りながら、違和感や相違を聞いていきました。 最初のベースを少しずつ固めていかないと、話が積みあがっていかず、毎回ビジョンから話し出すことになってしまいます。 認識をあわせるためのたたきを作り、積み上げていくような資料を作り、承認を受けていくというプロセスを作りました。 また、議論をする際も、リアルタイムに資料をまとめていくこともしていました。 結果、イメージのすり合わせもでき、その後も活用できる資料が出来上がっていました。
10		コンソーシアム構築の際、校内の体制や理解をどのように構築しましたか？	学校内の理解づくりは校長を中心に行いました。 コンソーシアムにより大きな変革をするわけではなく、既存の取り組みの持続可能性を高めるためのもののため、多くの説明時間をとったわけではありません。 1年の間に2回程度、校長から説明をした程度です。
11		地域や企業といった学校外コンソーシアムメンバーをどのように巻き込みましたか？（巻き込み方の工夫は？）	地域に向けてはコンソーシアム勉強会を10月に実施することで理解を深めました。企業についてはこれからです。コンソーシアムで具体的に何をするかということがまとまってから、お願いする内容を明確にし、声掛けをしたほうがよいように感じています。

【一市町村一高モデル：津和野高校】

NO	カテゴリ	問い	回答
12	ヒト	コンソーシアムのメンバーの中に構築への反対者はいましたか？その人をどのように巻き込みましたか？	課題感からコンソーシアムは生まれており大きな方向性はあらかじめ共有できているメンバーのため、準備委員会の中での反対者はいませんでした。
13		コンソーシアムの中で事務局の体制や役割はどのようなものでしたか？	資料作成、スケジュール管理、事前調整などいわゆるプロジェクトマネージャー的な役割でした。会計や事務処理だけではおさまらず、プロジェクトがしっかりと動いていくための支援、調整ができることが大切です。 ただし、前提としてコンセプチュアルな人や思いのある人がいるかいないかが大きなポイントです。コンセプチュアルな人や思いのある人がいない場合、そこから始める必要性があります。
14		コンソーシアム構築にあたり、うれしかった外部サポートはありましたか？	(株)エブリプランに仮説やたたきをつくるためのデータ収集を委託してサポートをしてもらったことです。データやリサーチがあった上で議論とたたき台づくりができたことで、説得力が増しました。また、外側からの視点をもって意見を言うていただいたことにも価値がありました。
15	カネ	コンソーシアム構築のために新たに確保した・使ったお金はありますか？	モデル事業で人件費を賄った津和野町教育魅力化統括コーディネーター中村や下半期のマネージャー玉木に加え、津和野高校魅力化コーディネーター山本（後援会雇用）の推進力も大きかったため、その点では後援会の職員人件費も費用といえます。また、関連する採用費なども別枠から出しています。
16		構築後の資金調達・運用をどのように考えていますか？	今後は法人格を取得したことにより、新たな助成金・補助金の獲得やクラウドファンディング、民間とのプロジェクトなど資金調達範囲とスピード感が早まることが期待できます。 また、財団法人設立時の拠出金は町の予算を確保予定です。
17	スケジュール	当初スケジュールを教えてください。	2019年中に法人化を完了するというような前提は、置いていたと思います。 メンバー全員で、どのようなコンソーシアムが必要か、というところから議論を深めて、スケジュール自体を修正していきました。
18		スケジュールは想定通りに進行しましたか？それとも変更がありましたか？変更点について教えてください。	思い通りにはなかなか進みませんでした。議論を深めていく中で法人から作るべきだなど大切なポイントがわかってきたので、2、3度の軌道修正をしました。 大きくは、準備委員会⇒社団法人⇒財団法人という流れをつくり、ある程度の法人設計をした上でコンソーシアムの具体的な内容の話をしたらしいのでは？となりました。
19		コンソーシアム構築にあたり、ここまでどのくらいの時間をかけましたか？（会議数、人数などから工数めやすがわかるとよい）	コンソーシアムマネージャーやその他の推進役の工数を考えると毎月1人月程度の工数はかかっていたと思います。資料作成、事前調整など、思った以上に工数はかかった印象です。
20	既存の組織体	すでにある組織の役割をスライドさせたケースはありますか？（協議会等が設置済の学校）	後援会の一部機能や予算はスライドするものがありますが、後援会そのものは残していきます。後援会からコンソーシアムにも理事や評議員を加えていきます。 後援会は同窓会機能も担っており、大きな応援団なので今後も大事にしていきます。設立に関しても理事会・総会などで共有をしてきました。協議会のスライドについては今後検討予定です。

NO	カテゴリ	問い	回答
21	既存の組織体	(魅力化校に対する問い) 協議会とコンソーシアムの違いはなんですか？	津和野町には教育魅力化推進協議会があり、教育委員会側のビジョンはすでに作ってきています。また、津和野高校後援会という組織もすでにあるので、その前提を持ちながら、コンソーシアムを設計する必要があります。 一方で、コンソーシアムを設計するプロセスの中で、事務局機能を有する『法人』をこの中に加えることができた、という武器も持ちます。 協議会のみだと、実行性に不安がある場合も想定できますが、実行性も資金も事務局機能も持つのがコンソーシアムと考えます。 例えば、大学との連携一つをとっても、どこが窓口になるのか？という課題がありました。 法人として連携窓口を巻き取ることで実行性を高めていくことができると考えます。
22		コンソーシアム構築にあたり、参考にしたモデルケースはありましたか？	海士町のふるさと魅力化財団のしくみを聞きに行ったのが土台になっています。津和野の場合、どこが海士町と違うのか？どこが違和感でどこが参考にできるか？を話したことが大きかったです。また校長は京都のコンソーシアムへも話を聞きに行きました。また、直接訪問したわけではないですが、こゆ財団、神山つなぐ公社などは行政から出向モデルとして参考にしました。
23	構築後の変化	コンソーシアム構築によって、どのような変化がありましたか？またはどのような変化を期待しますか？	町全体へよりつながりを持ち、個人ではできなかったコーディネートができることや持続可能性が高まることを期待しています。 また、民間と教育をもっとつなげられないか？とも思っています。企業の資源やリソースを教育に絡めることで、その結果高校生の進路選択に影響を与えることが起こるといいなと思っています。
24		コンソーシアム構築はどのように生徒の学び・成長につながっていますか？またはどのような学び・成長につながることを期待しますか？	社会人を経験をしてから大学に行くような子が生まれてもよいですし、津和野でいい教育ができ、津和野を考える子が増え、Uターンが増えることも願っています。
25	全体	この1年を振り返ってコンソーシアムにとっての一番の壁やターニングポイントは何？	以下の3点と考えます。 ① 4月時点で校長が町長・町教育長に説明をして方向性の了解をもらったこと。他の理解を得ていく過程で、町長・町教育長がすでに了解しているということは進めやすさにつながりました。 ② 行政も一緒に財団を作ることを決断し、拠出金を出すことを決めてもらったこと。これにより、町をあげての事業となりました。 ③ 法人を作ることを目指したこと。法人をつくるアイデアは今までもあったが、コンソーシアム事業をきっかけに法人を作ることを決められたことは大きかったです。

※高校後援会 津和野高校の教育活動を地域も含んで支援するための組織としてH18年に発足しました。その後、町営英語塾HAN-KOHの運営や塾講師の雇用などの機能も持ってきています。事務局は、津和野町役場つわの暮らし推進課内に置かれています。

2-3 一市町村複数校モデル：雲南市（大東高校、三刀屋高校、掛合分校）

▼今年度のゴール

- ・複数校によるコンソーシアムが構築され、コンソーシアムにより目指すべきビジョンが明確になること
- ・複数校で取り組むメリットが整理されること

▼コンソーシアムのビジョン（作りたい未来）

ビジョン、使命（ミッション）、大切にしたいこと（信念）の3つを整理しています。

ビジョン：日本一チャレンジを起こすユース世代が、多様性と温もりの中から学び合い、自ら創る雲南コミュニティハイスクールの実現

使命（ミッション）：日本、世界における未来の教育のスタンダードと雲南らしさの根幹となる信念、姿勢の継承を体現し続け、卒業生が「雲南市で学んでよかった」と振り返れる教育環境を創る。/学校（複数校）と地域が協働するからこそ実現できる経営資源マネジメント。

大切にしたいこと（信念）：関わるすべてのステークホルダーが当事者として参加し、責任を持つ（受け止め、つなぎ、叶える）こと。/対話の文化と風土があり、フラットな関係性であること。/現状や既存の枠組みにとらわれず、チャレンジと失敗を繰り返し、常に変化し続けること。/子どもたちのありのままを受け入れ、主体性を信じて待つ

▼解決したい課題

雲南市内における高校と地域との協働による教育魅力化の取組は、2017年度から本格的にスタートしました。雲南市では持続可能な地域づくりを目指し、雲南市教育魅力化推進会議^{*1}を設置し、魅力ある教育施策等についての提言を基に新たな施策を展開してきました。この間の取組により、高校生の地域に対する意識変容や市内中学生の市内高校への進学率増加、これまでになかったカタチ（場）で高校生がチャレンジする姿など、誰もがその効果を実感しつつある中、これまでの取組がより持続的で発展的な取組とするため、雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムの設立・推進を行うこととしました。

コンソーシアムの必要性（解決したい課題）は以下の3点です。

①高校、地域（県、市）が一体となった未来への方向性を合意する機関の必要性

魅力ある高校世代の教育環境構築を創出していくためには、それぞれの事業体単独の力では解決できない事案が、今後益々増えていくことが予想されます。そのためこれからの高校世代を支える各事業体が一体となった協働及び未来への方向性を合意する機関が必要になります。

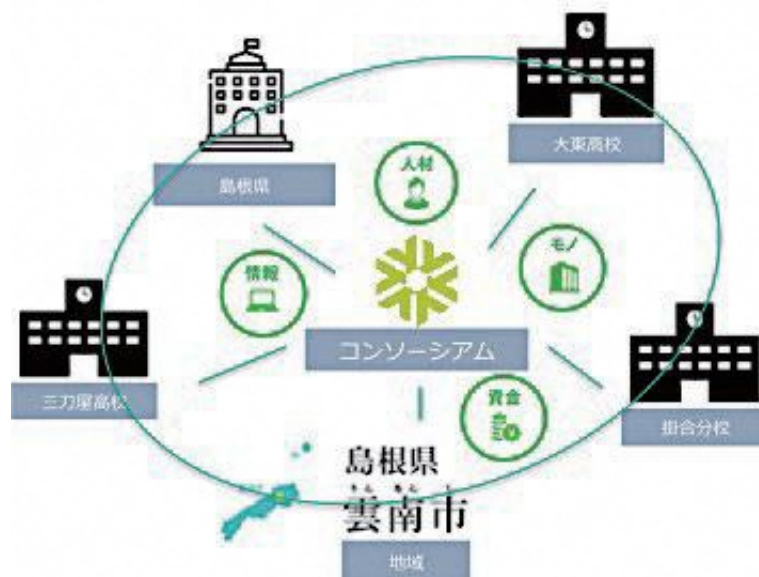
②フラットな関係性による対話の必要性

日本や島根県が目指す官民一体となった開かれた教育を実現するためには、学校・地域（県、市）・企業・NPO・個人等の多様なステークホルダーが教育の当事者となっていくことが重要です。その過程において、教育に関わるすべての人や団体が、上意下達ではなくフラットな関係性による対話の場が必要となります。

③全体最適によるさらなる教育魅力化の必要性

3つの高校（大東高校、三刀屋高校、三刀屋高校掛合分校）を有する雲南市においては、雲南らしさを継承しつつも劇的に変化する時代の要請に堪えうる未来の教育環境を構築するために、限られたリソースをどのように活用しあい、どんな魅力を担いあうべきか、全体最適を見通しながら、さらなる教育魅力化を推進していく必要があります。

▼組織図



【チームと役割・責務】

チーム	役割・責務
コレクティブチーム	○未来への方向性の合意
クリエイティブチーム	○経営企画（教育環境に関する戦略・戦術立案、実行シナリオの策定） ○経営管理（経営資源に関する戦略・戦術立案、実行シナリオの策定） ト広報、ファンドレイズ(資金調達)、採用、人材・育成関連等 ○地域の意思の確立（ラーニングカンファレンスによるヒアリング）
チャレンジチーム	○戦略・戦術・実行シナリオのすり合わせ ○自組織への取組導入、浸透
プロジェクトチーム	○クロスセクターで推進する共通アジェンダの実行 例）経営企画 個別最適な教育環境づくり：1人1台PCの実現 例）経営管理 事務室機能の統合の在り方：事務室機能の棚卸し

▼参加メンバー

コレクティブチーム（主に各組織の代表）

No	組織名	名前（役割）	チーム内役割
1	大東高校	校長（学校代表）	共同代表
2	三刀屋高校	校長（学校代表）	共同代表
3	掛合分校	副校長（学校代表）	共同代表
4	雲南市	市長（地域代表）	共同代表
5	島根県	教育長	議論のプロセスに参画し、課題感を共有した上で、コレクティブチームが合意した方向性の実現に努める

クリエイティブチーム

No	組織名	名前（役割）	チーム内役割
1	島根県	事務長	事務局兼務
2	島根県	伴走者	事務局兼務
3	雲南市	教育委員会担当	事務局兼務
4	雲南市	政策企画部担当	事務局兼務
5	認定 NPO 法人カタリバ	教育魅力化統括プロデューサー	事務局兼務

チャレンジチーム（教育魅力化推進会議兼務）

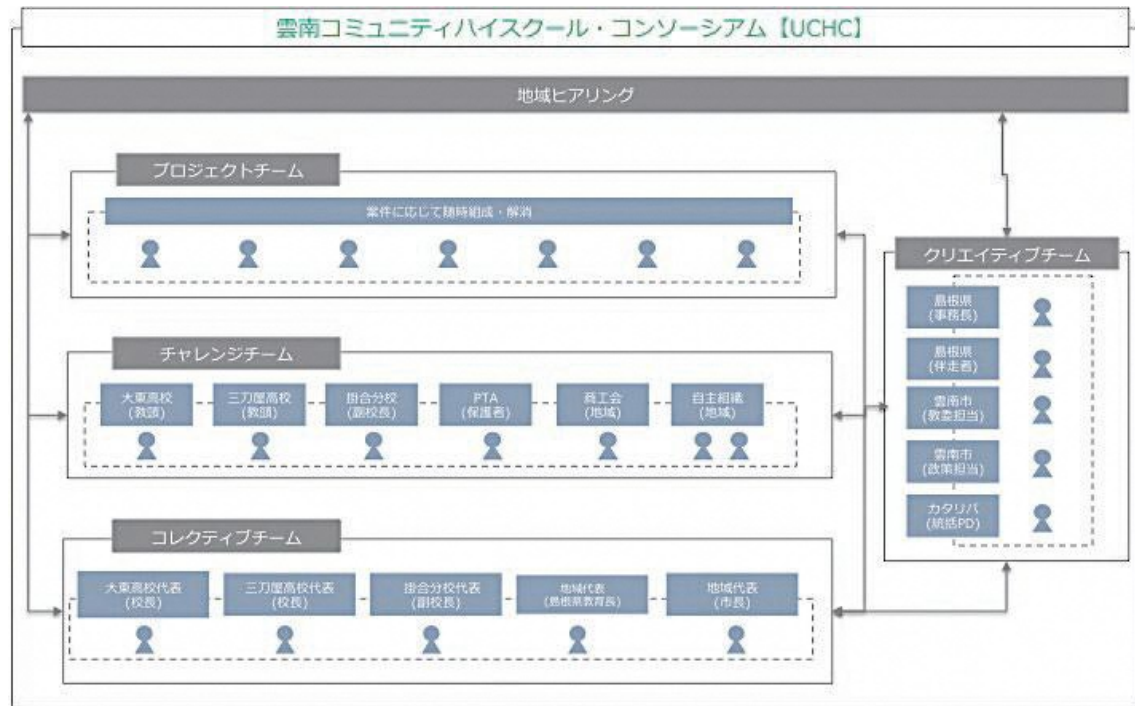
No	組織名	名前（役割）	チーム内役割
1	大東高校	教頭（学校代表）	
2	三刀屋高校	教頭（学校代表）	
3	掛合分校	副校長（学校代表）	
4	P T A	保護者代表	
5	商工会青年部	地域代表①	
6	地域自主組織連絡会（大東）	地域代表②	
7	地域自主組織連絡会（三刀屋）	地域代表③	
+ a	テーマに応じて増減		

プロジェクトチーム

No	組織名	名前（役割）	チーム内役割
	案件に応じて随時組成・解消		

※教育魅力化統括プロデューサーがコンソーシアムマネージャーを兼務。

▼関係性



▼スケジュール

- 4月 第1回コンソーシアム設立検討委員会
- ・コンソーシアム設立検討委員会の設置
 - ・メンバー：市内3高校（校長、副校長、事務長）、雲南市教育委員会、認定 NPO カタリバ（教育魅力化統括プロデューサー）



- 5月 第2回コンソーシアム設立検討委員会
- ・コンソーシアムの目的、在り方、推進体制検討



【一市町村複数校モデル：雲南市（大東高校、三刀屋高校、掛合分校）】

6月上旬 コンソーシアム骨子案策定ヒアリング

- コンソーシアム設立検討委員会メンバーへの骨子案策定ヒアリング実施
- 雲南市教育長への骨子案策定ヒアリング実施
- 雲南市長部局への骨子案策定ヒアリング実施
- 島根県教育委員会への骨子案策定ヒアリング実施
- ・コンソーシアムの目的、ミッション、理念の整理
- ・推進体制の構築
- ・各チームのメンバーシップの検討



7月上旬 第3回コンソーシアム設立検討委員会

- ・コンソーシアム骨子案（第1案）協議

7月中旬 高校魅力化コンソーシアム構築事業第1回研修

- ・全県立高等学校へのコンソーシアム事業進捗状況発表

7月中旬 第4回コンソーシアム設立検討委員会

- ・コンソーシアム骨子案（第2案）協議



8月下旬 教育魅力化推進会議

- ・教育魅力化推進会議委員へのコンソーシアム事業進捗状況共有

9月上旬 第5回コンソーシアム設立検討委員会

- ・骨子案承認

9月下旬～12月上旬

雲南教育カンファレンス実施

- ・高校生、保護者、評議員、同窓会、教職員、地域自主組織、企業、NPO、個人、及び有識者からの意見を広聴。各地域、学校、市役所等で実施。



- 12月中旬 第6回コンソーシアム設立検討委員会（予定）
- 2月中旬 雲南コミュニティ・ハイスクール・コンソーシアム設立（予定）
- 11月下旬 県教育委員会へのコンソーシアム骨子案説明
- 12月下旬 第6回コンソーシアム設立検討委員会
 - ・雲南教育カンファレンス結果共有、次年度検討するテーマについて協議
- 1月下旬 教育魅力化推進会議
 - ・教育魅力化推進会議委員へのコンソーシアム事業進捗状況共有
- 2月上旬 高校魅力化コンソーシアム構築事業第2回研修
 - ・全県立高等学校へのコンソーシアム事業進捗状況発表
- 2月下旬 第7回コンソーシアム設立検討委員会
 - ・コンソーシアム構築に向けた最終確認
 - ・コンソーシアム規約について（※別紙参照）
 - ・次年度進めてしていくテーマについて
- 3月中旬 コンソーシアム正式立ち上げ
- 4月中旬 第1回コンソーシアム会議（コレクティブチーム）実施



▼コンソーシアム構築に向けたプロセス

ゴール	重点項目	体制
複数校によるコンソーシアムが構築され、コンソーシアムにより目指すべきビジョンが明確になる。 →複数校で取り組むメリット整理	①コンソーシアムの構築 …3高校との関係性の整理 …現状できないことの抽出 ②事務室機能の棚卸 …何を一元化できるかの整理 …新にどんな機能を持つか	①現場常駐プロデューサー（拠点：三刀屋高校） ②各高校管理職 ③雲南市（政策、教育委員会） ④県伴走者 ⑤コンソーシアムマネージャー（教育魅力化統括プロデューサー）

NO	カテゴリ	問い	回答
1	最初の一步	最初の旗振り役はどなたでしたか？	島根県の事業としてH25年に『地域でつなぐキャリア教育モデル推進事業』の指定を受けたことをきっかけに魅力化協議会が設置されました。その後、H28年度より高校に専属コーディネーターを配置し、教育魅力化のさらなる促進を目指して、コンソーシアム設置がスタートしています。 そのため、コンソーシアム設立の推進は、県、市、学校、コンソーシアム事業担当者の4者がそれぞれの立場で責任と覚悟を持って、旗振り役をしたことが重要だったといえます。
2		最初の一步目は何でしたか？	まず最初に、コンソーシアム設立検討委員会を設置しました。島根県立高校魅力化ビジョンや雲南市での魅力化の取り組みの成果や課題をもとに、コンソーシアムの必要性や意義を確認していきました。これまで培ってきた雲南のキャリア教育（保幼こ～小～中～高の縦の連携）という強みに加え、より魅力的な教育を実現するため、雲南市全体をコミュニティハイスクール（市内3高校の横の連携）と捉えて協働していくことを確認しました。
3		最初の会議では何を話しましたか？なぜそのテーマを設定しましたか？	・島根県立高校魅力化ビジョンの確認 ・コンソーシアムモデル事業の説明 ・雲南市におけるこれまでの教育魅力化の取り組みについて（雲南市教育魅力化アクションプラン等） ・なぜコンソーシアムが必要なのかの共有 ・魅力化協議会とコンソーシアムの違いについて を話し、設立準備会を設置。
4	ビジョン（目的）	コンソーシアムにより作りたい未来はどんな未来ですか？	ビジョン：日本一チャレンジを起こすユース世代が、多様性と温もりの中から学び合い、自ら創る雲南コミュニティハイスクールの実現 使命（ミッション）：日本、世界における未来の教育のスタンダードと雲南らしさの根幹となる信念、姿勢の継承を体現し続け、卒業生が「雲南市で学んでよかった」と振り返れる教育環境を創る。/学校（複数校）と地域が協働するからこそ実現できる経営資源マネジメント。 大切にしたいこと（信念）：関わるすべてのステークホルダーが当事者として参加し、責任を持つ（受け止め、つなぎ、叶える）こと。/対話の文化と風土があり、フラットな関係性であること。/現状や既存の枠組みにとらわれず、チャレンジと失敗を繰り返し、常に変化し続けること。/子どもたちのありのままを受け入れ、主体性を信じて待つ

【一市町村複数校モデル：雲南市（大東高校、三刀屋高校、掛合分校）】

NO	カテゴリ	問い	回答
5	ビジョン (目的)	コンソーシアム構築により解決したかった課題は何ですか？すでに協議会が存在した学校は、これまでの協議会では解決しなかった課題は何でしたか？	雲南市内における高校と地域との協働による教育魅力化の取組は、2017年度から本格的にスタートしました。 雲南市では持続可能な地域づくりを目指し、雲南市教育魅力化推進会議^{※1}を設置し、魅力ある教育施策等についての提言を基に新たな施策を展開してきました。 この間の取組により、高校生の地域に対する意識変容や市内中学生の市内高校への進学率増加、これまでになかったカタチ（場）で高校生がチャレンジする姿など、誰もがその効果を実感しつつある中、これまでの取組をより持続的で発展的な取組とするため、雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムの設立・推進を行うこととしました。 コンソーシアムの必要性（解決する課題）は以下の3点です。 ①高校、地域（県、市）が一体となった未来への方向性を合意する機関の必要性 魅力ある高校世代の教育環境構築を創出していくためには、それぞれの事業体単独の力では解決できない事案が、今後益々増えていくことが予想されます。そのためこれからの高校世代を支える各事業体が一体となった協働及び未来への方向性を合意する機関が必要になります。 ②フラットな関係性による対話の必要性 日本や島根県が目指す官民一体となった開かれた教育を実現するためには、学校・地域（県、市）・企業・NPO・個人等の多様なステークホルダーが教育の当事者となっていくことが重要です。その過程において、教育に関わるすべての人や団体が、上意下達ではなくフラットな関係性による対話の場が必要となります。 ③全体最適によるさらなる教育魅力化の必要性 3つの高校（大東高校、三刀屋高校、三刀屋高校掛合分校）を有する雲南市においては、雲南らしさを継承しつつも劇的に変化する時代の要請に堪えうる未来の教育環境を構築するために、限られたリソースをどのように活用しあい、どんな魅力を担いあうべきか、全体最適を見通しながら、さらなる教育魅力化を推進していく必要があります。
6		どのようにコンソーシアムメンバーの共同ビジョンをつくりあげましたか？	策定にあたっては雲南コミュニティハイスクールコンソーシアム（UCHC）の目指す、ありたい雲南コミュニティハイスクール（UCH）の姿を、雲南ラーニングカンファレンス（雲南の子どもたちに関するすべての当事者による、専門的な意見や地域の意見を広く聞くための本音の対話の場／14回実施、約200名参加）の実施により、高校生・保護者・評議員・同窓会・教職員・地域自主組織・企業・NPO・人及び有識者から、広く聴取し構築しました。
7	ヒト	コンソーシアムのメンバーはどのような観点で決めましたか？	魅力化推進委員会は19人と人数が多く、関連のない議題にも出席をしたり、議論が進みずらかったりといったことがありました。 そのため、覚悟をもって取り組みをする真のステークホルダーをコンソーシアムメンバーとすることを観点としました コレクティブチーム、クリエイティブチーム、チャレンジチームの3つを組成し、役割を分けました。 プロジェクトチームは案件ごとに組成し、解散。スピード感を持って対応できることを目指しています。
8		コンソーシアム構築の際、中心人物（中心チーム）となった方（々）はどのような方ですか？	中心のないチームを目指しています。その意味で、今回構築の当事者である県の担当者、市の担当者、各高校管理職（校長、教頭、事務長）、コンソーシアム担当マネージャの当事者性が強く反映されると言えます。
9		コンソーシアム構築の目的や意義を参加メンバーにどのように説明しましたか？	設立検討委員会を月1回のペースで行い、隔週の各校管理職ミーティングで、魅力化の取り組みと合わせてコンソーシアムの共有をおこないました。1回で理解を得るのではなく、長い期間をかけて理解を少しずつ深めていきました。魅力化の議題をコンソーシアムの議題として整理するなどして、プロセスの中で理解を深めていきました。

【一市町村複数校モデル：雲南市（大東高校、三刀屋高校、掛合分校）】

NO	カテゴリ	問い	回答
10	ヒト	コンソーシアム構築の際、校内の体制や理解をどのように構築しましたか？	雲南のコンソーシアムは、雲南コミュニティハイスクールのロードマップへの影響があるテーマや地域及び市内3高校の協働必要性が高いものを扱うため、必ずしもすべての教職員への説明が必要になるものではありません。そのため、実際にコンソーシアムを推進しながら、関係するステークホルダーの理解を得ていく形を検討しています。
11		地域や企業といった学校外コンソーシアムメンバーをどのように巻き込みましたか？（巻き込み方の工夫は？）	ビジョンづくりと推進してほしいテーマ抽出の段階で地域にヒアリングの機会をつくり、当事者になっていただく第一歩としての関わりを作りました。地域からも今後こうした機会を毎年継続してほしいという声を頂いています。
12		コンソーシアムのメンバーの中に構築への反対者はいましたか？その人をどのように巻き込みましたか？	特にいませんでした。
13		コンソーシアムの中で事務局の体制や役割はどのようなものでしたか？	事務局は雲南市教育委員会担当、雲南市役所政策企画部担当、コンソーシアム事業担当、県伴走者で担当しました。 役割はステークホルダーとの関係構築、ニーズ把握、企画、実装作業です。 教育政策だけではなく市の全体政策とリンクをさせることが極めて重要な中で、政策企画部と連携したことは円滑に進む一つの要因となりました。
14		コンソーシアム構築にあたり、うれしかった外部サポートはありましたか？	県の担当者が伴走者として、調整の窓口となってくれていたことです。今後は伴走者というより、同じチームの中の主体者として動いてくださることを期待しています。 また、コンソーシアム事業担当は自組織の利害なく動くことができるので、すべての主体者の調整役として機能しました。
15	カネ	コンソーシアム構築のために新たに確保した・使ったお金はありますか？	モデル事業費以外の調達はなし
16		構築後の資金調達・運用をどのように考えていますか？	ふるさと納税（県・市町村）、学校予算・保護者負担の再構築による捻出、卒業生会の活用、もしくはプロジェクトベースでの調達を考えています。

【一市町村複数校モデル：雲南市（大東高校、三刀屋高校、掛合分校）】

NO	カテゴリ	問い	回答
17	スケジュール	当初スケジュールを教えてください。	4月 第1回コンソーシアム設立検討委員会 ・コンソーシアム設立検討委員会の設置 ・メンバー：市内3高校（校長、副校長、事務長）、雲南市教育委員会、認定NPOカタリバ（教育魅力化統括PD） 5月 第2回コンソーシアム設立検討委員会 ・コンソーシアムの目的、在り方、推進体制検討 6月上旬 コンソーシアム骨子案策定ヒアリング ・コンソーシアム設立検討委員会メンバーへの骨子案策定ヒアリング実施 ・雲南市教育長への骨子案策定ヒアリング実施 ・雲南市長部局への骨子案策定ヒアリング実施 ・島根県教育委員会への骨子案策定ヒアリング実施 ・コンソーシアムの目的、ミッション、理念の整理 ・推進体制の構築 ・各チームのメンバーシップの検討 7月上旬 第3回コンソーシアム設立検討委員会 ・コンソーシアム骨子案（第1案）協議 7月中旬 高校魅力化コンソーシアム構築事業第1回研修 ・全県立高等学校へのコンソーシアム事業進捗状況発表 7月中旬 第4回コンソーシアム設立検討委員会 ・コンソーシアム骨子案（第2案）協議 8月下旬 教育魅力化推進会議 ・教育魅力化推進会議委員へのコンソーシアム事業進捗状況共有 9月上旬 第5回コンソーシアム設立検討委員会 ・骨子案承認 9月下旬～12月上旬 雲南教育カンファレンス実施 ・高校生、保護者、評議員、同窓会、教職員、地域自主組織、企業、NPO、個人、及び有識者からのご意見を広くいただきます。各地域、学校、市役所等で実施。 12月下旬 第6回コンソーシアム設立検討委員会 3月中旬 雲南コミュニティ・ハイスクール・コンソーシアム設立（予定）
18		スケジュールは想定通りに進行しましたか？それとも変更がありましたか？変更点について教えてください。	地域の人の声を聞こうと思えば思うほど時間がかかるものです。地域や学校の実情に合わせゆっくりと進めたため、当初の予定より時間を要しました。
19		コンソーシアム構築にあたり、ここまでどのくらいの時間をかけましたか？（会議数、人数などから工数めやすがわかるとよい）	おおよそ10か月です。過去の積み重ね（高校でいうと3年）があつての10か月のように感じます。
20	既存の組織体	すでにある組織の役割をスライドさせたケースはありますか？（協議会等が設置済の学校）	魅力化推進会議、コーディネータ配置、探究授業の魅力化は3年目となり、それを発展・継続させるような形になっています。キャリア教育・社会教育事業も市としてはその前から取り組んでおり、基盤となっています。
21		（魅力化校に対する問い）協議会とコンソーシアムの違いはなんですか？	協議会は会議体で1回1回というイメージがありますが、コンソーシアムは常に動いている状態、です。メンバーシップ、プロジェクトも固定化されておらず、ビジョンに向けて動くことと大切にすべきことに合意があります。雲南の子どもたちのための未来の方向性の合意と実施するすべての協働そのものがコンソーシアムと言えます。

【一市町村複数校モデル：雲南市（大東高校、三刀屋高校、掛合分校）】

NO	カテゴリ	問い	回答
22	既存の組織体	コンソーシアム構築にあたり、参考にしたモデルケースはありましたか？	各事業会社をもつ企業のホールディングスの形や、大学のアンブレラ方式を参考にしました。各事業体からリソースをもちより、学校や地域がPJベースでタスクフォースでやっていくのがコンソーシアムといったイメージです。また対話型の構築プロセスについてはNPO法人カタリバの手法をモデルとしました。
23	構築後の変化	コンソーシアム構築によって、どのような変化がありましたか？またはどのような変化を期待しますか？	県、市、学校のそれぞれの想いが交錯し、顕になりました。「どこを向いて仕事をしていくのか」を原点に、まずは雲南で育つ子どもたちのためにという想いをどれだけ共有できるかが必要になってきます。想いだけではなく、実際に意思決定し、行動していくことが期待されます。
24		コンソーシアム構築はどのように生徒の学び・成長につながっていますか？またはどのような学び・成長につながること期待しますか？	最終的には生徒自らも主体となってコンソーシアムを動かしていくことを期待しています。
25	全体	この1年を振り返ってコンソーシアムにとっての一番の壁やターニングポイントは？	スタート時点で、県・市・学校・コンソーシアム担当者の想いや認識にズレが生じていたことです。構築及び推進を間近に控え、コンソーシアムに対するそれぞれの想いの強さや考え、認識の違いが顕になり、本年の対話を必要としました。それぞれが本音で対話できないことが一番の壁であり、それぞれの意見をぶつけ合ったことが一番のターニングポイントかもしれません。

2-4 複数町村一校モデル：島前高校

▼今年度のゴール

- ・学校経営補佐官制度を導入し、経営会議の実施と再度のビジョンの策定を行うこと

▼コンソーシアムのビジョン（作りたい未来）

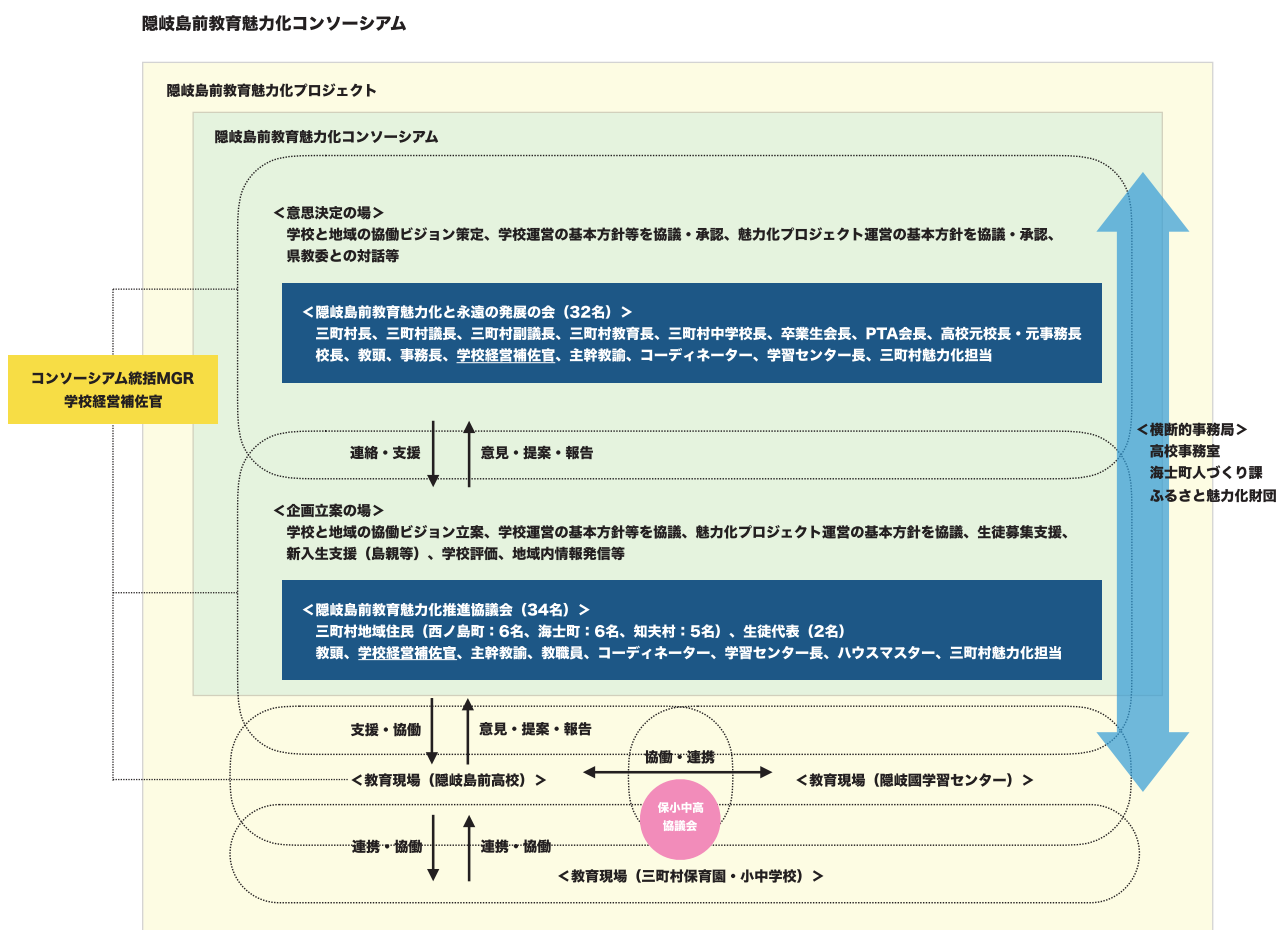
意志ある未来をつくることです。なりゆきの未来では島前高校は廃校、町が衰退していきます。意思ある未来に向けて行動することで、未来そのものがよりよくなっていくことを信じ、意思ある未来づくりを進めています。

▼解決したい課題

高校統廃合危機からの脱出と、永遠に持続可能な魅力化体制の構築

▼組織図/参加メンバー

コンソーシアムをすでに存在する魅力化の会と魅力化推進協議会の2つと定義しています。魅力化の会は、3町村や島前高校の目指していく方向性の確認と意志決定をします。魅力化推進協議会は、方向性や意志をどうやって形にしていけるのかを考えるチームです。



▼スケジュール

＜魅力化の会＞

- 第1回 9月25日（水）
- 第2回 12月18日（水）
- 第3回 3月17日（火）



＜魅力化推進協議会＞

- 第1回 5月19日（日）
- 第2回 6月30日（日）
- 第3回 9月8日（日）
- 第4回 1月19日（日）
- 第5回 3月15日（日）

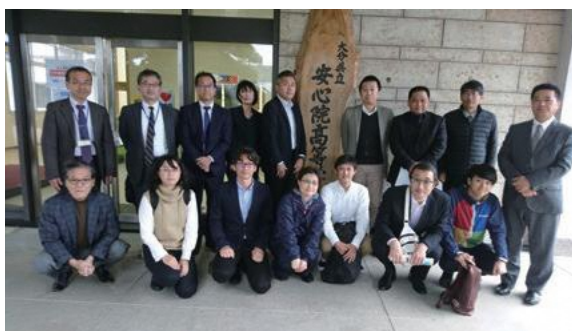


＜魅力化視察＞

11月17日（日）～19日（火）

大分県立安心院高校（コンソーシアム構成員、高校教員、小中管理職等）

・小中高の教科連携に係る視察



▼コンソーシアム構築に向けたプロセス

ゴール	重点項目	体制
学校経営補佐官制度を導入し、経営会議の実施と再度のビジョンの策定を行うこと	学校経営補佐官を入れた経営会議の実施とビジョンの再策定	魅力化の会：3町村や島前高校の目指していく方向性の確認と意志決定を行う会 推進協議会／事務局：方向性や意志をどうやって形にしていけるのかを考えるチームでコンソーシアムを構成

NO	カテゴリ	問い	回答
1	最初の一步	最初の旗振り役はどなたでしたか？	最初の旗振り役としては役場担当者・高校事務長・社会教育主事・魅力化コーディネーター（＝コンソーシアムマネージャー）があげられます。役場担当者が組織づくり、役場担当者・事務局やお金周り、3町村の関係者調整やワーキンググループの参加者への声掛けは社会教育主事、全体の進行案などを魅力化コーディネーターが担当しました。高校側とは校長・教頭・事務長・役場担当者・社会教育主事・魅力化コーディネーターで定期的（隔週）に協議・確認会を持ちながら進んでいきました。
2		最初の一步目は何でしたか？	まず、高校の魅力化に向けてビジョンを作る必要性・推進する共同体の必要性を役場と校長で最初は協議しました。そこで、まず魅力化の会（＝コンソーシアム）必要性までは合意することができました。すでに高校には3町村の首長や議長、議員が参加する後援会が存在しており、それを改名・発展させる形で魅力化の会としました。
3		最初の会議では何を話しましたか？なぜそのテーマを設定しましたか？	最初の会合は、3月末に開催されたので、新年度をどう進めるのか？という話をしました。高校魅力化のビジョン・構想の構築のステップからこういったワーキンググループを作り、どんな人に参加してもらい、どのくらいの会議をやるかなどのプロセスづくりを提案し、4月以降の進め方について承認をもらいました。
4	ビジョン（目的）	コンソーシアムにより作りたい未来はどんな未来ですか？	意志ある未来のづくり手をつくることです。なりゆきの未来では島前高校は廃校、町が衰退していきます。意志ある未来に向けて行動することで、未来そのものがよりよくなっていけることを信じ、意志ある未来づくりを進めています。
5		コンソーシアム構築により解決したかった課題は何ですか？すでに協議会が存在した学校は、これまでの協議会では解決しなかった課題は何でしたか？	高校統廃合危機からの脱出と、永遠に持続可能な魅力化体制の構築です。魅力化協議会＝コンソーシアムのため、課題は引き継がれています。
6		どのようにコンソーシアムメンバーの共同ビジョンをつくりあげましたか？	足を使ってヒアリングをしました。事務局側のたたき台を持ち、一人ひとりに赴いていきました。昨年行った、第3期魅力化構想づくりには魅力化の会、推進協議会に加え先生、コーディネーターも含め、委員を選定して第3期魅力化構想「意志ある未来のづくりかた」を創りました。こんな未来を創りたいということを多くの人に聞いてまわるということがこの時も土台となりました。

NO	カテゴリ	問い	回答
7	ヒト	コンソーシアムのメンバーはどのような観点で決めましたか？	●魅力化の会 3町村長の参加は必須と考えましたが、もともと3町村長を集めるのは難しいことがわかっていました。そこで、島前病院についての連絡協議会の後ろに魅力化の会を設定することで、必ず3町村の組長が参加できるようにしました。 よって魅力化の会のメンバーは島前病院についての連絡協議会とほぼ同じになっています。 ●推進協議会 3町村のバランスを考えてメンバーを決めました。 中学生の親御さん、高校生の親御さんなど地域の中心となる方々にお声がけしています。 10年ほど同じメンバーでまわしてきましたが、今年の春に若返りをはかり、平均年齢40-45歳のメンバーを中心に構成されています。
8		コンソーシアム構築の際、中心人物（中心チーム）となった方（々）はどのような方ですか？	最初の旗振り役と同様です。
9		コンソーシアム構築の目的や意義を参加メンバーにどのように説明しましたか？	島前高校の永遠の発展と魅力化であることを共有しています。
10		コンソーシアム構築の際、校内の体制や理解をどのように構築しましたか？	魅力化の推進に理解が追いつかない先生がいたときは、視察に行くなど一緒に体験を持つことをしてきました。 また、そういう人こそ、推進協議会のメンバーになってほしいとあえてお願いし、プロセスづくりに巻き込んでいきました。
11		地域や企業といった学校外コンソーシアムメンバーをどのように巻き込みましたか？（巻き込み方の工夫は？）	どういう観点で参加し、話をしてほしいか、一人ひとりの人たちに話すことをしています。 保護者目線で、卒業生目線で、女性目線で・・・など、一人ひとりをお願いしています。 例）お弁当のことで困っているのはお母さんしかわからない
12		コンソーシアムのメンバーの中に構築への反対者はいましたか？その人をどのように巻き込みましたか？	No10と同じ
13		コンソーシアムの中で事務局の体制や役割はどのようなものでしたか？	事務局長：役場職員、事務局：コンソーシアムマネージャー、事務サポート、先生といったメンバーで構成されています。 事務局の役割としては、年間計画策定・目標設定、議題のとりまとめ、議事録作成、会計処理等です。 経営的な視点を持つ部分と事務処理をする部分との2つの機能が存在しています。 特にビジョンを見据えて、今年何やるかを明確に描ける存在は必要です。
14		コンソーシアム構築にあたり、うれしかった外部サポートはありましたか？	地元出身の方が事務局や魅力化推進協議会の参加者にいらっしゃりサポートしてくれることはありがたいです。 自分が1ターンのため、島外からの感覚はなんとなくわかる一方、地域の方々のニーズの思想思考は地元の人間じゃないとわからない部分もあります。 魅力化プロジェクトも1ターンが多く、島外から期待によりがちな中、魅力化の会や推進協議会は地元の人を中心なので、視座を取り戻す機会をいただいています。

NO	カテゴリ	問い	回答
15	カネ	コンソーシアム構築のために新たに確保した・使ったお金はありますか？	事務局を担当するスタッフの人件費等はふるさと魅力化財団で賄っており、基金は3町村からの出資金によるものです。
16		構築後の資金調達・運用をどのように考えていますか？	すでに行っている視察受け入れといった自主事業に加え、ふるさと納税からの調達をしていく予定です。ゆくゆくは50%を自主財源で賄えたらと考えています。
17	スケジュール	当初スケジュールを教えてください。	今年の目標は学校経営補佐官をいれ経営会議の実施と再度のビジョンの策定を行うことでした。 出だしに時間がかかりましたが、月1回の定例会議の実施を行い、経営補佐官に学校のスピードの理解をしてもらうなど、当初の目的は達成できました。
18		スケジュールは想定通りに進行しましたか？それとも変更がありましたか？変更点について教えてください。	
19		コンソーシアム構築にあたり、ここまでどのくらいの時間をかけましたか？（会議数、人数などから工数めやすがわかるとよい）	
20	既存の組織体	すでにある組織の役割をスライドさせたケースはありますか？（協議会等が設置済の学校）	魅力化の会と推進協議会の二つをあわせてコンソーシアムとしています。 魅力化の会：3町村や島前高校の目指していく方向性の確認と意志決定 推進協議会：方向性や意志をどうやって形にしていくのかを考えるチーム
21		（魅力化校に対する問い）協議会とコンソーシアムの違いはなんですか？	なし
22		コンソーシアム構築にあたり、参考にしたモデルケースはありましたか？	なし
23	構築後の変化	コンソーシアム構築によって、どのような変化がありましたか？またはどのような変化を期待しますか？	- 例えばシンガポールの海外研修は積み立てと魅力化の予算でサポートされています。コンソーシアムからの金銭的な面での支援によってグローバルな機会が増えているのは変化の一つです。また、議員さんや議長が参加されていることにより、成果やプロセスが伝わることで高校の価値を感じていただいています。そのため、教育に金がかかって無駄だという人がいない状態で動いているのはありがたいことです。 - 大きな予算が教育に対して動くのも、実際未来を変えた実感を共に持っていてくれるからだと思います。このように、コンソーシアムにより、子供たちが学ぶための安心安全な土壌ができています。
24		コンソーシアム構築はどのように生徒の学び・成長につながっていますか？またはどのような学び・成長につながることを期待しますか？	

【複数町村一校モデル：島前高校】

NO	カテゴリ	問い	回答
25	全体	この1年を振り返ってコンソーシアムにとっての一番の壁やターニングポイントは何？	今年、学校経営会議で島前高校の現状を言語化したことが大きかったです。それにより、島前高校の島内からの信頼、島外からの期待が混在しているのが特徴とわかりました。 島内からの信頼は学力向上、大学進学、当たり前前が当たり前前になる生徒を育てること、島外からの期待は人間力の育成、新しさなどがあります。 どちらも混在しますので、切り捨てることはできません。多様性の中でどうしていくのか？ということ自体がコンソーシアムで考えていくべきことだと思います。 また、島内の中学生人口が少ない中、どう2クラスを維持していくかはコンソーシアムで中心的に議論している最中であり、乗り越えたい壁です。

第3章 参考資料

3-1 高校魅力化コンソーシアム構築事業第1回研修

1. 内容

(1) 概要

(a) 研修実施日

2019年7月22日（月） 13：00～17：00

(b) 研修目的

- ① 高校魅力化コンソーシアムとは何かを理解する
- ② 先導モデル校の取組をもとに、自校・自地域で活動を一步前に進めるイメージを持つ

(c) 研修対象者

先導モデル校及び全県立高校

※高校管理職、事務長、教職員、市町村担当者、コーディネーターなどコンソーシアム事業に必要なメンバー

(2) 研修内容

(a) 当日タイムライン

- 13：00 今日の目的説明／チェックイン
- 13：15 コンソーシアム事業の概要説明
- 13：30 分科会説明
- 13：40 分科会① 先導モデル校の取組の共有（松江東高校／雲南市／津和野／島前高校）
- 14：20 分科会② 先導モデル校の取組の共有（松江東高校／雲南市／津和野／島前高校）
- 15：00 分科会③ 自校・自地域について考える
- 16：25 全体振り返り
- 17：00 終了

(b) コンテンツ別内容

●チェックイン／今日の目的説明

研修の冒頭に、2人1組でいまの気持ちと今日学びたいことを共有し、今日研修の目的を一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム／本宮より、説明した。

●コンソーシアム事業の概要説明

島根県教育庁教育指導課／後藤康太郎より、教育課程とコンソーシアム構築の関係性、コンソーシアム構築のポイント、2022年に向けての各高校のステップイメージ、今年度の先導モデル事業校の紹介を行った。

<モデル校類型>

・都市型モデル：松江東高校

→都市部に県立高校が所在し、高校魅力化協議会のような既存組織がない高校において、都市部ならではの資源（企業、大学等）を活かしながらコンソーシアム構築を目指すモデル

・離島・中山間モデル（一町村一校モデル/複数町村一校モデル）：津和野高校、隠岐島前高校

→離島・中山間地域に県立高校が在し、高校魅力化推進協議会のような既存組織がある高校において、既存組織を更に進化・発展させてコンソーシアム構築を目指すモデル

・一町村複数モデル：雲南市／大東高校、三刀屋高校、掛谷分校

→同一市町村に複数の県立高校が所在し、高校魅力化推進協議会のような既存組織がある高校において、複数校が連携し効率的なコンソーシアム構築を目指すモデル

また、島根県教育魅力化特命官／岩本悠より、コーディネート機能を担う人材確保・育成および体制＝協働コンソーシアム構築の支援に向けた国への要望案を共有した。

●分科会①、② 先導モデル校の取組の共有

（松江東高校／津和野高校／隠岐島前高校／雲南市：大東高校、三刀屋高校、掛谷分校）

参加者は、興味のあるモデル校のブースに分かれ、40分×2回の分科会を実施した。

都市型モデル：松江東高校

松江東高校校長／野々村卓先生によるプレゼンテーション（背景／東高の特色／経緯／目座すもの／取り組み／課題／コンソーシアム体制案等）と参加者による質疑応答を行った。



一町村一校モデル：津和野高校

津和野高校校長／熊谷修山先生によるプレゼンテーションと参加者による質疑応答を行った。



一町村複数校モデル：島前高校

隠岐島前高校学校経営補佐官／大野圭祐、主幹教諭／登城智宏によるプレゼンテーション（魅力化協議会の体制／会議体の紹介等）と参加者による質疑応答を行った。



一町村複数モデル：雲南市／大東高校、三刀屋高校、掛谷分校

コンソーシアム担当マネジャー／山田雄介、によるプレゼンテーション（雲南コミュニティ・ハイスクール・コンソーシアム骨子案）と参加者による質疑応答を行った。



●分科会③ 自校・自地域について考える

都市部／離島・中山間部／雲南市の3ブースに分かれて、ディスカッションを行った。

都市部ブース：松江市・出雲市・安来市・大田市・益田市・浜田市・江津市

はじめに、学校または市町村別にグループを作り、ここまでの感想や気になることを共有した。

- ・学校と企業のwin-winの学びとは何か？
- ・探求学習の進め方は？
- ・従来の学びをどう発展させていくか？
- ・地域密着の仕組みをどうつくるか？
- ・市との連携をどうつくるか？
- ・OBの協力をどう得るか？
- ・資金調達をどうするか？

などが気になる点としてあげられた。

その後、各々が、この場で話してみたいことを紙に書き出し、近い関心の人たちでグループを組み、対話を深めた。

<グループの話題>

- ・なぜコンソーシアムが必要なのか？
- ・コンソーシアムをつくる最初の一步のはじめ方は？
- ・コンソーシアムの体制とは？
- ・自治体とのコンソーシアム連携の仕方
- ・予算について
- ・専門学校のコンソーシアムのあり方
- ・企業や大学とどう連携するか？
- ・コンソーシアムにおけるコーディネーターの役割とは？

離島・中山間部ブース：津和野町・川本町・奥出雲町・邑南町・隠岐の島町

分科会①②を終えての感想とこの場のみんなで考えたい問いを小グループで話し合ったのち、問いを5つにしぼり、興味のあるメンバーで集まり対話を深めた。

<話し合われた問い>

- ・自治体が高校に関わるメリット、win-winの関係づくり
- ・どんな人を巻き込むか？

- ・コンソーシアムをつくるメリットは？
- ・コンソーシアムは学力とどうかかわるか？
- ・教員の本気度をどう高めるか？

雲南市ブース：雲南市＋市外の希望者

第4回コンソーシアム設立準備会を、雲南市外の参加者も含めて実施した。

<議題>

- ・雲南コミュニティーハイスクールコンソーシアムの骨子の最終承認について
→推進体制についての承認
- ・雲南ラーニングカンファレンスについて
→2040年を生き抜く大人がはぐくまれる理想の教育環境は？今の課題は？
→2040年になっても子供たちに引き継いでいきたい大切にしてほしい雲南の人の信念、マインド、スタンス（雲南らしさ）とは？いまの課題は？
- ・今後の進め方についての説明、議論



●全体振り返り

今日の学び・新たな問い・明日からのアクションを、チェックアウトとして2人組で共有したのち、数名の参加者に全体に共有してもらった。

最後に一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事水谷智之および島根県庁教育指導課／多々納雄二の挨拶により、閉会した。

3-2 高校魅力化コンソーシアム構築事業第2回研修

1. 報告内容

(1) 概要

(a) 研修タイトル

令和元年度「しまね 大人の探究フェスタ2019」

高校魅力化コンソーシアム先導モデル構築事業等成果発表会

(b) 研修実施日

2020年2月7日（金） 10：00～17：00

(c) 研修目的

- 1) 「県立高校魅力化ビジョン」に掲げる、魅力ある高校と地域づくりの実現に向け、今後の方向性や具体的な取組に関して共通理解を図るとともに、県内各地・各校の取組の成果や課題等の知見について理解を深め、対話を通じ具体的な取組につなげる機会とする。
- 2) 各種研修会等（※）を統合・横断的に企画運営することにより、働き方改革を図りながら、多様な主体の参画を実現し、もって研修成果の向上を図る。

※コンソーシアム構築モデル事業研修会、魅力化事業研修会・県単加配主幹教諭研修会、しまね留学研修会、文部科学省地域協働事業成果共有会、よりよい社会を作るための意欲・能力育成講座

(d) 研修対象者

先導モデル校及び全県立高校

※高校管理職、事務長、教職員、市町村担当者、コーディネーターなどコンソーシアム事業に必要なメンバー

(e) 研修により生み出したい変化

- ・全県立高校及び島根県教育委員会が一体となって地域協働スクールを実現するために、改めて今後の県立高校改革の流れやコンソーシアム構築の意図、コンソーシアム構築過程の先導的事例等を対話し、連携・協働の道筋をつかんだ状態になること
- ・全県立高校が先導モデル校の知見をもとに、2022年度までのスケジュールと検討体制の計画を立てるための要所をつかんだ状態になること

(f) 研修受講人数

約120名

(2) 研修内容

(a) 当日タイムライン

	項目	内容	
10:00	開会	趣旨説明	
10:05	ビジョンの実現に向けて	講話 (15)	佐藤教育監
10:20	次年度以降へ向けた取組	説明 (10)	学校ビジョン実現に係る行程表の作成
10:30	コンソーシアム構築① (先導モデル事業)	発表 (60) 質疑 (30)	松江東 (都市型) 雲南市 (1市複数校型) 津和野・隠岐島前 (中山間地域・離島型) 事業解説
12:00	休憩 (60)		
13:00	コンソーシアム構築② (文科省事業)	発表 (35)	事業解説 出雲農林 (プロフェッショナル型) 平田 (地域魅力化型)
13:35	コンソーシアム構築③ (意見交換)	協議 (40)	コンソーシアム構築、社会に開かれた教育 課程づくりに関する意見交換、質疑応答

(b) コンテンツ別内容

▼今日の目的説明

研修の冒頭に、本日の目的について島根県教育庁教育指導課/立石調整監より説明をした。

▼ビジョン実現に向けて/次年度以降に向けた取組

島根県教育委員会/佐藤教育監より、教育課程とコンソーシアム構築の関係性、2022年に向けての各高校のステップイメージ、次年度以降に向けた島根県の取組についての紹介を行った。



▼パネルディスカッション

次年度からすべての県立高校で取り組むコンソーシアム構築について、先導モデルとして先行した各地域の成功事例の要諦・失敗事例の要因の全体共有を目的とし、実施した。また、コンソーシアム構築の目的をどのように設定しているのか、そのためにどのような組織でコンソーシアムを構築したのかについても全体共有をした。



<登壇者>

島根県立津和野高等学校	校長	熊谷修山	(一市町村一校モデル)
島根県立松江東高等学校	教諭	手銭隆志	(都市型モデル)
雲南市教育委員会		福島勇樹	(一市町村複数校モデル)
島根県教育委員会		後藤康太郎	

★島根県立隠岐島前高等学校/コンソーシアムモデル事業統括

大野佳祐 (複数町村一校モデル)

★がモデレータを務めた。

<主なパネルディスカッションの内容>

モデル校の概要紹介の後、パネリストとともに意見交換を行った。



モデレーター大野からの「問い」

●コンソーシアムで作りたい未来は何か？（大野、以下略）

（津和野/熊谷）人材の還流を起こすことだと考える。高校から地域の存在を認めるだけではなく、地域からも高校の存在を認められる関係をつくること

（松江東/手銭）開かれた教育課程を作ること

（雲南/福島）雲南市で暮らすこともたちが豊かになるため

（島根県/後藤）自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要な「生きる力」を育むため

●目的がはっきり共有されてないと前に動き出せない。津和野では最初にだれが目的をつくらうとしたのか？それをどのように地域と共有したのか？

（津和野/熊谷）魅力化事業はすでに行われており、維持発展のステージ。地域と一緒にやることは大事ということは共有されている。それを法人化して実現することを町長・町教育長に説明した。

●既存の協議会がないような都市型の松江東高がスタート段階で乗り越えるためにしたことは？

（松江東/手銭）校長が企業等を回る中で協力者を募った。その中で熱意を持った人とつながれたことがはじまりだと認識している。

●管理職や教員が異動していくことによる難しさはあるか？

（雲南/福島）異動があるのは避けられてないことだと思う。中長期的なものをコンソーシアムで合意することにより、管理職の異動があっても影響がないようにしていきたい。

●地域と協働すると地域の声を聴く必要がある。そのような中の校長のリーダーシップをどう考えているか？

（津和野/熊谷）校長は地域と結ぶ結節点にいる。広報になる。そこで、地域の人が集まってくる。

●基礎自治体から校長に期待することは？

（雲南/福島）学校経営に関して単年度ベースではなく、中長期的なことを意思決定することをぜひ期待したい。

●コミュニティスクールの導入について、県では検討しているのか？

（島根県/後藤）コンソーシアムは多様な主体による対話を通じた構築をめざすもので、いわばボトムアップの仕組み。コミュニティ・スクールのように県が枠組みを

作るのがどうかという面がある。しかしながら、議論を重ねる中でコンソーシアムにコミュニティ・スクールとしての機能が必要であるとの声も有り、コミュニティ・スクールの努力義務化の流れもある中、コンソーシアムとの整理も含めて検討が必要と考えている。

●ちなみに、コミュニティスクールができるとどんなことができるか考えるか？

(雲南/福島) 法的な位置づけができることと、人事についての要望を地域がいえること。

●主幹教諭のように、先生の役割が多機能しているかのように思えるがどうか？

(松江東/手銭) 若い年代からキャリア教育や地域と関わってきた人は受け入れやすいと感じている。研修などをいれることも一手。

●外部人材の役割と財源は？

(モデル校に配置されている、コンソーシアム運営マネージャー以外について)

(松江東/手銭) 文部科学省「地域との協働による 高等学校教育改革推進事業」の指定校に採択されたため、カリキュラム開発等専門家には、謝金や交通費を支払いしている。それ以外はボランティア。

(津和野/熊谷) 高校魅力化コーディネーターは、地域おこし協力隊の制度の活用または後援会(町財源)により採用している。外部人材との接点は、教育魅力化統括プロデューサーなどが、町外や県外など新たな人材との関りをつくってくれている。(雲南/福島) コーディネーターというより、プロデューサーやクリエイティブデザイナーとして活躍している。町の予算と推進交付金から財源は獲得。

●今後、コンソーシアムに関する県の財源支援は？

(島根県 後藤) 2020年度、コンソの運営支援やマネージャー人件費などを措置する方向で議論をしている。



<全体意見交換 ※会場からの質問>

質問① 総合学科でコンソーシアム構築を目指したいが、忙しくてなかなかできない。

総合学科に教員定数増、主幹教諭加配など検討してほしい。

(事業統括/大野) コンソ運営マネージャー事業の活用など、工夫はできるのではないかな? なんとかしてありたい姿を実現するのがマネジメントだと考える。智恵をだして工夫して突破していかないとならない。

質問② 会議はどのくらいの頻度やこういった場でやっているか?

(津和野/熊谷) いろんな会議体で協議をしている。最終的に目指すところは事業集合体。担当者が関係の人と交渉して各事業が生まれる。コーディネーターが協議して、学校に持ち込まれて事業になる。こうした集合体がコンソーシアムを形成している。

(松江東/手銭) 役員会は3回くらい。それ以外に不定期にワーキンググループとして集まる計画。

質問③ 2022年の新学習指導要領の改訂にむけて、次の1~2年をどのようなチャンスととらえて、何を具体的に実現したいか?

(津和野/熊谷) コンソーシアムを法人化し、財団法人として持続可能な体制づくり、つまり事務局機能を持つこと。また、生徒たちが育ち、津和野で何かやりたいという声が増えること。

(松江東/野々村校長) まずは、文科省事業の指定校として成果をあげる。島根大学との連携を現在進めているが、より2年後には自走できるような体制を目指す。また、生徒がどのように成長するのかをきちんと見ていきたい。

(雲南/福島) 新時代に対応できる子どもたちを育てる、未来の学校づくりをすること。新しい公教育のモデルを描くことを目指していきたい。



質問④ コンソーシアムをつくるにあたっての最低限のポイントは？

(雲南/福島) 目指す未来を共有すること。

(松江東/手銭) 高校魅力化を進めるために集まる人たちであること。そのためにも集める段階でそれぞれの思いを伝えていくことが大事。

(津和野/熊谷) 地域の持続性に向けても、高校の魅力化の重要性を共有していくこと。

質問⑤ コンソーシアム運営マネージャーの役割は何か？また、その役割をどのように決めたか？

(津和野/熊谷) これまで、同等の役割を担ってきた人に、コンソーシアム運営マネージャーとして肩書をつけた。

(松江東/手銭) 県事業のスタート時に役割を整理した。最初は、魅力化推進部のスタッフとして入ってもらった。ニュースレターづくり、スケジュール管理、連絡調整、資料作成、アイデアの言語化、可視化、教職員アンケートなどヒアリングなどをしてもらった。

次年度はコンソーシアムの運営に関わる部分で役割を整理していきたい。

(雲南/福島) 役割は、国の流れや県のビジョン踏まえて目指す未来を実現すること。市と高校で協議をして役割を定めた。

質問⑥ 主幹教諭への役割や期待は？

(津和野/熊谷) コーディネーターの統括は主幹教諭。管理職とコーディネーターで進んできたものを、他の教員など内部につなぐ役割。

<まとめ/事業統括 大野より>

コンソーシアムに正解はない。ビジョンの図の通りに実現するのではなく、柔軟に変えてよい。それぞれの生態系に応じたものを作っていくのがコンソーシアムである。



▼コンソーシアム意見交換

モデル事業からは以下の4つの分科会を実施し、意見交換を行った。

①津和野高校

分科会テーマ

「コンソーシアムがなぜ必要か？について、主幹教諭、コーディネーター、役場、マネージャーなどにセクター毎の対話」



②松江東高校

分科会テーマ

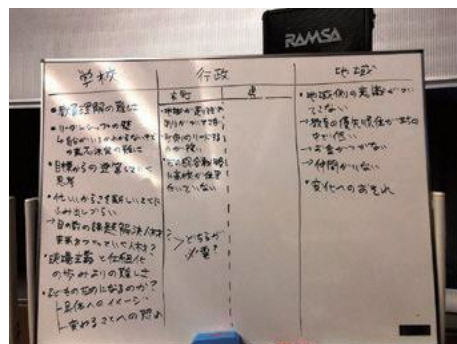
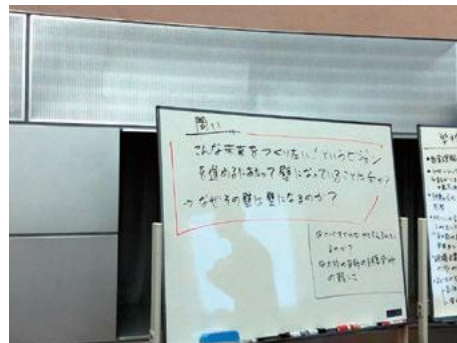
「コンソーシアム設立に向けてのプロセス共有（管理職）」



③雲南市

分科会テーマ

「こんな未来を作りたいというビジョンを進めるにあたって壁になっていることは何か？なぜ、それは壁になるのか？という問いをグループ討議」



④島前高校

分科会テーマ

「どのような座組のコンソーシアムを作ったか？どういう風に人材像を作ったのか？といったプロセスについての対話」



3-3 参考文献・関連書籍

- ・ 島根県教育委員会（2019年2月）
「県立高校魅力化ビジョン」
<https://www.pref.shimane.lg.jp/gakkokikaku/saihen/keikaku.data/miryokukavisionsaisyu.pdf>
- ・ 地域・教育魅力化プラットフォーム（編）（2019年6月）
「地域との協働による高校魅力化ガイド」 岩波書店
- ・ 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局（2019年）
第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」
- ・ 文部科学省初等中等教育局教育課程課（2020年2月）
新しい学習指導要領リーフレット 制作後記～リーフレットを読み解くためのヒント～
参照先：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1414159.htm
- ・ 文部科学省「高校と地域をつなぐ人材の在り方に関する研究会」運営事務局（2020年3月）
「高校と地域をつなぐ人材の在り方に関する研究会」 報告書
発行 三菱UFJリサーチ&コンサルティング

コンソーシアムの設置に関わる資料について、
島根県教育委員会のホームページに掲載しています。
ぜひご活用ください。

<https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/koukoumiryoku/consortium.html?site=sp>

- 「高校魅力化コンソーシアム」の手引き
- 高校魅力化コンソーシアム設置報告書（様式）等
- 各高校・地域の「高校魅力化コンソーシアム」の規約・役員会名簿・活動計画 など

高校魅力化コンソーシアム構築に向けた問い集

— 高校魅力化コンソーシアム構築支援事業 —

令和2年3月

発行／島根県教育委員会

編集／一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム

〒690-0886 島根県松江市母衣町83-5

TEL：0852-61-8866 FAX：0852-61-8867

E-mail：info@c-platform.or.jp

